Autodesk Self-Qualified
CIARA TITAN™
a Hypertec brand
GPU Server
MAIL：bsi@ngc.co.jp
ngc

映像新聞

令和元年（2019年） 5月20日 第2384号

株式会社 映像新聞社
Weekly THE EIZOSHIMBUN
(VISUAL COMMUNICATIONS JOURNAL)
〒112-0006 東京都文京区小日向1丁目24番8号エイゾービル
電話：(03)3942-2161(代)／ファクス：(03)3942-2581
昭和42年1月25日 第3種郵便物認可 郵便振替：00140-0-65786
1部600円、年間購読料26,000円(税別)
◎映像新聞社
毎週月曜日発行(月4回発行)

神谷町第1スタジオ4K化

12G—SDIで構築

テレビ東京

4K対応は2つ目

テレビ東京（東京都港区）は、旧本社ビル内にある神谷町スタジオの第1スタジオを更新した。バラエティー番組制作中心の中規模スタジオで、HD化から17年が経過していた。神谷町第1スタジオは、六本木本社の設備構築で蓄積したノウハウを生かして設計している。同局としては、六本木本社の第2スタジオに続く4K対応スタジオとなる。4K信号の伝送インタフェースは12G—SDI。HD番組制作をベースとしながら、4K番組制作の拡大にも備える方針だ。

テレビ東京では、2016年11月から稼働した六本木の新本社に4つのスタジオを開設する一方、神谷町スタジオの第2スタジオ、天王洲スタジオの第1スタジオも更新。そして今回、神谷町の第1スタジオを更新した。4K対応としては本社の第2スタジオ（3G—SDI）に続くスタジオとなる。

今回更新した神谷町第1スタジオは、中小規模のバラエティー番組の収録をメインにしたスタジオで、フロア面積は約660平方㍍。設計を担当した技術局制作技術センターの中山拓氏は「六本木本社の設備構築で蓄積したノウハウ、設計思想を生かした」と話す。

卓のレイアウトや、マスターに対するAPSのテイクを送るパネルなど、本社のサブと仕様を統一することで、オペレーションミスが起こらないようにしたという。


4K対応に更新した神谷町第1スタジオのサブ

サブの仕様を統一
操作ミス対策万全に

卓のボタンの間隔やレイアウト、クリック感など、天王洲の第2スタジオの更新時から試行錯誤して固めてきた要素を踏襲している。

映像システムはソニービジネスソリューション、音声システムはオタリテックが担当。音響工事は日本音響に発注した。今回、スタジオフロアのホリゾントの全面改修、PTタイルの張り替えも実施しており、これも日本音響に発注している。

映像システムについて中山氏は「4Kとしての運用はこれからの部分があるので、オペレーションに応じた設定ができる汎用性の高い設計を意識した」と話す。HD制作をベースとしながら、今後の4K制作にも対応できることを念頭に設計しており、4K設備が入ることでHDの運用がしにくくなるということがないよう注意したという。

カメラ設備はソニーの「HDC—4300」、4Kカメラ用ベースバンドプロセッサーユニット「BPU—4500A」各6式。「HDC—4300」6式の内ビルドアップユニットで大型カメラとして運用できるものが4式、クレーン、ハンディ利用が各1式となっている。レンズはハンディ型がキヤノン、箱型が富士フイルム。いずれも4K対応レンズである。

スイッチャーはソニー「XVS—9000」。カメラ設備、スイッチャーとも12G—SDIに対応している。マトリクススイッチャーは朋栄「MFR—4000」（4K）、「MFR—8000」（HD）。

ソニーのHDRプロダクションコンバーター「HDRC—4000」を24式導入しており、HD SDR、4K HDR（HLG、またはPQ）など放送に応じた信号に変換できる。収録はXDCAMステーション「XDS—PD2000」6式。コーデックはMPEG HD422である。

〈3面に続く〉


神谷町第1スタジオのフロアとカメラ設備

「NABショー2019」出展を中心にした最新製品・サービスが一堂に集結する〈特集12—15面〉

After NAB Show 2019 特集

本号の主な記事

NABショーレポート⑤……9—11

［プロダクション］
JPPAが「三大事業」概要を発表
AWARDS贈賞式は5月31日 ……2
［プロ機器］
ソニーがAI活用の映像制作支援
ユニットを発売へ ……3
［放送］
メディアキャスト/統合型データ
放送装置をテレビ静岡に納入…3
視聴データ新時代/変わるビデオ
リサーチ ……4

映像新聞ウェブサイト
http://www.eizoshimbun.com
購読のお申し込みはこちらから

MULTI FORMAT CONVERTER
XC 2 SERIES
2つのビデオプロッセッサ搭載
スーパーインポーズ・P in P 表示

HDMI・DVI・3G/HD/SD-SDIの広範囲な
各種デジタル映像信号を2入力2出力で相互に
変換するマルチフォーマットコンバータです
XC 2 ベーシックモデル
XC 2 sio SDI入出力対応
株式会社 デジタルアーツ
http://www.digitalarts.co.jp
Digital Arts

LAWO NAV & Control
V__matrix
SOFTWARE-DEFINED IP CORE
ROUTER & PROCESSING PLATFORM

未来のコンセプトを現実のものに
既存のハードウェアの概念から開放された、バーチャルモジュールによるソフトウェアデファインドIPコア
大容量の汎用IPスイッチを中核としてIPコアをネットワーク上に配し、バーチャル・ルーター・プロセッサーを構築
既存のシステム以上の可用性、柔軟性、拡張性を実現します
AIMS Media Networking Alliance RAVENNA

grass valley
A BELDEN BRAND
ライブイベント中継システム
既存のレンズ環境にそのまま適応
HDR - HLG /ST 2084
15 Fストップのダイナミックレンジ
広色域 - BT.2020
IP入出力 - SMPTE 2022-6 /TICO
Native 4K *
HiSpeed (3X)
XtremeSpeed (6X)

K2 Dyno Universe
リプレイシステム

LDX 86N シリーズ
LDX 86 シリーズ
B4 マウントカメラ
＊いずれの機能もオプションにより対応
＊Native 4K 対応はLDX 86N
スチューダー・ジャパン－ブロードキャスト株式会社
映像システム部
システム提案、設計、施工
〒108-0022 東京都港区海岸 3-3-8
03-5730-0780 www.studer.co.jp

◆一般の部優秀賞〈映像技術部門〉

カテゴリー	【ジャンル】作品（所属社、受賞者）
オフライン	【広告】ジェームス【連続10秒ドラマ】愛の停止線（スタッド、明石風太） 【ドラマ】エントリー作品なし 【ドキュメンタリー/その他】TDK「Make It Attractive」（デジタル・ガーデン、皆見雄二）
オンライン	【広告】日本コカ・コーラ アクエリアス「水よりアクエリ 夏 森星」篇（ピラミッドフィルム PTHREE、山田雄太） 【広告】ルクア大阪「ルクア フードホール」（IMAGICA Lab.、坂下登） 【広告Ⅱ】Honda “ORIGAMI”（デジタル・ガーデン、須藤公平） 【テレビ】受賞作品なし 【テレビⅡ】「天才絵師・伊藤若冲 世紀の傑作はこうして生まれた」（ソニーPCL、藤森康平） 【Web】【WebⅡ】エントリー作品なし 【その他】TDK「Make It Attractive」（デジタル・ガーデン、久保卓也）
グレーディング	【広告】SIGMA Brand Movie（ピラミッドフィルム PTHREE、嶋田真幸） 【ドラマ】恋のツキ（デジタル・ガーデン、石山将弘） 【映画／その他】日日是好日（IMAGICA Lab.、山口登）
テロップデザイン	乃木坂工事中#179「ゲームに負けたら罰コスプレ 強制ハロウィーンパーティー」（IMAGICA Lab. 伊藤正博／中川璃南）

◆一般の部優秀賞〈音響技術部門〉

カテゴリー	【ジャンル】作品（所属社、受賞者）
ミキシング	【広告】ソニー生命 企業「その人は」篇（太陽企画、森田明宏／藤原礼実） 【広告Ⅱ】プレイステーション クラシック空耳ラップ篇（オムニバス・ジャパン、福森彩奈） 【テレビ】エントリー作品なし 【テレビⅡ】RAMEN-DO#1 中華そば べんてん（東京サウンド・プロダクション、山口智美） 【Web】【WebⅡ】エントリー作品なし 【その他】受賞作品なし
サウンドデザイン	【広告】受賞作品なし 【広告Ⅱ】エントリー作品なし 【テレビ】エントリー作品なし 【テレビⅡ】行ってみれば戦場（東海サウンド、村上祐美／犬飼小波） 【Web】【WebⅡ】エントリー作品なし 【その他】エントリー作品なし

◆審査員特別賞	
映像技術部門	オンライン【広告Ⅱ】kojoe「Day n Nite」（TTR、山本鴻）
音響技術部門	受賞作品なし
◆新人賞	
映像技術部門	オンライン【テレビⅡ】消された記録・消えない真実（VSQ、藤本結樹）
音響技術部門	受賞作品なし

◆学生の部入賞作品

部門	カテゴリー	最優秀賞	優秀賞
映像技術部門	ドラマ	Not a Hero（日本大学芸術学部、林 大智/前田 瑠香/星野 孝輔）	『死ねない わたしたち』（日本映画大学、志田有利/小林結貴/國兼花）
音響技術部門		『死ねない わたしたち』（日本映画大学、村嶋 紀之/伊藤 雪成/岡本 彗夢/吉田 篤史）	Not a Hero（日本大学芸術学部、林 大智/前田 瑠香/星野 孝輔）
映像技術部門	ドキュメンタリー・その他	最後の青春（日本工学院専門学校、中澤 唯/岩城 佳恵/中山 咲希）	シビ活! 花椒カケル（専門学校東京ビジュアルアーツ、三上 千春/田口 更紗/山本 玲奈）
音響技術部門		どうようであそんでみた!（日本工学院専門学校、加納 有哉/田中 真穂/野村 健人）	最後の青春（日本工学院専門学校、中澤 唯/築地 明日香/井関 麗）
映像技術部門	CG・アニメーション	MOWB（多摩美術大学、油原 和記）	Shooting Star（日本工学院専門学校 張 昊輝/長井 惠）
音響技術部門		受賞作品なし	受賞作品なし

◆審査委員奨励賞

映像技術部門	華の花（専門学校東京ビジュアルアーツ、井口 勇典/本橋 夢乃/杉山 真奈） LOST×FOUND（日本工学院専門学校、尾籠 隼/山田 俊吾/阿部 真裕香）
音響技術部門	カラオケ・アンサンブル（立命館大学大学院、畦池 有花/宮川 勝行/小泉 洋介） 『日傘をさす女』（東京藝術大学大学院、渡邊 大貴） 十七年目の家族（名古屋学芸大学、加藤 世理奈）

JPPAが「三大事業」概要を発表

JPPA AWARDS贈賞式を5月31日に開催

九州放送機器展は7月末に変更



（左から）橋詰氏、西田氏、三上氏、寺尾氏、渡辺氏（広報委員長）

日本ポストプロダクション協会（JPPA）は16日、同協会が「三大事業」として注力する映像音響処理技術者資格認定試験および九州放送機器展（QBE）、JPPA AWARDSの今年度の概要について発表した。

第21回を迎える映像音響処理技術者資格認定制度は、6月2日に全国42会場で実施する。受験申請者数は1623人。人材育成を主な目的に産学共同で推進するもので、映像・音響関連業界で必要な技術の基礎知識の習熟度を判定し、「映像音響処理技術者」として認定する。近年はポストプロや機材会社での教育でも活用されている。

資格認定制度委員会の橋詰勝朗委員長は、「制度参加校から『分野や範囲が広く対策が難しい』といった意見があった。陳腐化した問題を統合削除するなど問題数を絞ると同時に、回答の選択肢を増やすなどして質を担保。より学習しやすくした」と説明する。

九州放送機器展（QBE）は7月31日－8月1日、福岡県の福岡国際センターで開催される。13日現在で118社192小間が出展を決めている。

JPPA九州支部長の西田茂氏は、「例年7月初旬に開催していたが、2年続けて豪雨災害に見舞われた。同じ時期では災害の振り返り取材などで現場スタッフが参加しづらいことから、会場が空いていたこの日に変更した」と話す。来場者は3000人を目指す。

今年は、参加者が会場を見て回る時間を確保できるよう主催者セミナーを抑えた一方、好評のアウトレット販売コーナーを拡充する。業界を目指す専門学校・大学の出展や、ステージ装飾の協力は今回も継続する。「夏休み期間中ではあるが、学校から『学生の発表の場となる』『現場に携わるチャンス』と話をいただいた」（同氏）という。

優れた作品の制作と技術の向上を目指すJPPA AWARDSは、5月31日に東京のザ ストリングス 表参道で贈賞式を開き、経済産業大臣賞1作品と、映像技術部門および音響技術部門の各グランプリを発表する。

同賞は昨年から募集カテゴリーを細分化するなど形式を大幅に変更し、作品の仕上がりへの貢献を制作工程別、作品分野別にフラットに評価する。

今回の応募本数は、一般の部が124本と前年から10本減少。一方、学生の部は60作品と、例年の40－50本を大きく上回った。アウォード委員長の寺尾爾氏は、「会員社以外の学校の応募が増え、作品の質も向上している」と話す。

またJPPAには現在、NHKとテレビ朝日が賛助会員として加盟する。JPPAの三上信一会長は、「ファイルベースワークフローやQC（品質管理）の知見や情報を共有し、より有益な活動につなげられれば」と話している。

多目的簡易ブース（アナウンス・編集・MA）
あなたのオフィスがスタジオに～
安価 簡単設置 短期で施工
●サイズはフレキシブル（設置場所に対応）
●解体・移設も可能
●遮音性能 Dr40

映像スタジオ施工
MA室 ブース 各種 編集室 注文制作家具
Takahashi Construction Co., Ltd. SOUND PROOF ～映像・音響専門 SINCE1979～
一級建築士事務所
高橋建設株式会社
本社 〒216－0032 神奈川県川崎市宮前区神木1－7－8
TEL044-853-0547 FAX044-852-1588
（社）日本ポストプロダクション協会会員／（社）日本音楽スタジオ協会会員
（社）日本音響学会会員
デジタル映像環境に対応、直営システムに依る徹底したコストダウン
映像・音響・防音 プランニング・施工
http://www.takahashi-kensetsu.co.jp
info@takahashi-kensetsu.co.jp



4K時代の総合映像ポストプロダクション
togen
株式会社 東京現像所
www.tokyolab.co.jp

ソニー

AI活用の映像制作支援ユニット

カメラ映像を自動解析

板書抽出や自動追尾など実現

ソニーは、AI（人工知能）を活用した映像制作支援ユニット「Edge Analytics Appliance（エッジ・アナリティクス・アプライアンス）」を6月10日から発売すると発表した。オープン価格。各種アプリケーションのライセンス（別売）をインストールすることで多彩な機能を使用できる。

同ユニットは型名が「REA−C1000」。動体や顔の検知、色や形状の認識など、複数の映像解析技術を機械学習させたAIエンジンを搭載している。

HDMI経由で接続したカメラの映像を自動的に解析し、GPU上で処理を実施することで、映像内の特定の被写体の抜き出しや、他の映像と組み合わせたリアルタイム表示など高度な映像表現が可能になる。

映像処理に関する専門知識や特別な機材が必要ないため、導入しやすいことも特徴だ。

AIエンジンには、ソニーが長年にわたるカメラ開発で蓄積した画質パラメーターやPTZ（パン・チルト・ズーム）駆動に関するノウハウを活用。自社の回線型リモートカメラシステムやXDCAMカムコーダーと組み合わせることで、より高度な機器連携を実現できる。4K／HDの入出力を装備し、4K制作への対応も可能だ。

同ユニットのアプリケーションには、独自の動体・非動体検知機能を用いて、ホワイトボードや黒板に書かれた文字や図形をリアルタイムに判別・抽出し、登壇者の前面に浮き上がらせられる「板書抽出オーバーレイ」（6月10日発売／オープン価格）や、ソニー独自の動体検知技術により、プレゼンターのみを自動的に抽出して、HDMI端子から入力した任意の背景画像・動画にリアルタイムに重ね合わせることができる「クロマキーレスCGオーバーレイ」（今秋発売予定／同）、ユニット本体に接続された送出・運用の機能をオールインワンで提供し、データ放送に必要な機能を、特別な技術習得なしで簡単に運用できる。

送出機能と監視機能は局内に設置。CMS（Content Management System）機能やARIB変換機能を含む運用機能をクラウドで処理することにより、局内設備を最低限に抑えて導入・運用コストを大幅に削減できる。

送出機能と監視機能が局内に設置してあることで、クラウドサービス間のネットワーク障害が発生した場合でもTS出力を継続することが可能。

従来はキー局が系列ローカル局も含めた全体のデータ放送制作をカバーし、ローカル局はパススルー局として系列キー局が提供するサービスをそのまま提供するのが一般的。SUTは、同ソリューションによって独自のデータ放送送出機能を確保。これをもとに、地域に密着した情報やサービスを提供する。

具体的には、①ローカルニュース・全国ニュース②ピンポイント天気・週間天気・全国の天気・指数情報・天気図／衛星画像③竜巻／土砂災害／記録的短時間大雨情報④地震／津波情報、台風情報⑤おすすめ番組／イベント情報――などを提供する。

また、河川水位情報やLアラート、マリン情報などの季節情報も追加する予定。今後、地域独自の企画コンテンツや番組演出、ハイブリッドキャストをはじめとするネット連携サービス、イベントメッセージ機能を使った番組連動なども計画している。

なお、データ放送コンテンツの制作は東海テレビ放送（名古屋市）が担当する。

「DataCaster Cloud M3」は全国のテレビ局やCATV局などに100台以上の出荷実績がある「DataCasterシリーズ」のクラウド版。フジテレビ（FNS）系列ローカル局への同シリーズの納入は初という。

メディアキャスト

統合型データ放送システム テレビ静岡に納入

独自送出機能で地域向けサービス

メディアキャスト（東京都品川区）は、テレビ静岡（SUT／静岡県静岡市）へ、統合型データ放送ソリューション「DataCaster Cloud M3」を納入したと発表した。

同ソリューションは、データ放送における制作・

テレビ東京が神谷町第1スタジオ4K化

設備のレイアウトに苦心

使い易さや本社サブとの整合性

〈1面から続く〉



中山氏

ターモニターが同「X300」、照明用マスターモニターが同「X300」、照明用マスターモニターがソニー「BVM−HX310」、VEのマスター「BVM−

実数調査などインターネットを活用した新たな視聴データが登場する中、ビデオリサーチ（VR）は従来の視聴率調査を発展させると同時に、進化し始めた視聴データにも対応する方針を発表した。同社は今年2月開催の「VR FORUM2019」でも、テレビの価値を表現する会社として今後も努力する方針を示している。視聴率で長年にわたり、業界で独自のポジションにあり続けたVRがどう変化していくのかを考える。

（特別取材班）

視聴データ新時代（中）

変わるビデオリサーチ

サンプルと実数調査を連携

生活者データベースを活用 より詳細な視聴者分析実現

★60年近い歴史

VRの視聴率調査は60年近い歴史を持つ。スタートは62年で、紅白歌合戦が80%近い視聴率を誇った頃である。ただし当時は、調査員が記録テープを直接対象家庭から回収していたため、翌週にならないと数字は分からなかった。

視聴率調査は1977年にはオンライン化され、翌日に視聴率が発表されるようになる。さらに97年には機械式個人視聴率調査が導入され、世帯視聴率だけでなく、男女年層別の視聴実態が分かるようになった。テレビの媒体価値を表現する調査として、着実に進化を遂げてきたのである。

しかし、2010年代、インターネットやスマホの普及で、広告主の考え方に変化が生じてきた。ネット広告では、商品のターゲット層だけに広告を露出できる。広告を認知した後に、商品の詳細ページに遷移するなど、生活者の反応も瞬時に把握できる。いわば広告効果が「見える化」された。

一方、テレビCMでは、どれだけ見られたのか、量的側面は見えたが、AIDMA論理でいうところのA（認知）までだった。I（興味）・D（欲求）にどの程度至ったのか、さらには最後のA（購入）までは何人ぐらい到達したのかまでは見えなかった。

このため近年は、「テレビ広告の効果を社内で説明できない」など厳しい見方が増えている。また「テレビへの出稿比率を下げる」と議論する広告主まで出始めた。この結果、視聴率測定システムが昨春変更される。20年ぶりの変更だった。

導入されたのは、「テレビスポット取引の新指標」としての〝個人全体視聴率（ALL）と「PT+C7」〟。P（Program）は番組平均、そしてC7は7日以内に再生された広告枠の視聴率を組み合わせて指標としている。

新指標の意味は2つある。1つは60年近い視聴率の歴史の中で初めて、録画再生が視聴率の対象になった点。もう1点は、個人視聴率が前面に出てきた点だ。急伸を続けるネット広告の世界では個人単位の測定が常識。テレビもこれに合わせ、広告主の要求に歩み寄った形となったのである。

★拡張する実数調査

このような1歩前進の間に、実は視聴データの世界は長足の進歩を遂げた。ネット接続テレビの視聴ログを収集するなど、実数調査が可能となったのである。

ここでは、テレビメーカーが収集する視聴ログによる調査と、データ放送を活用したテレビ局による調査などが登場した。

VRの視聴率はサンプル調査だが、こちらは対象となるテレビすべてを把握するため、実数調査と呼ばれる。各メーカーのテレビだけでなく、同じ環境下のWeb活動を追跡できる。つまりテレビであるCMを視聴した人が、その商品の詳細をネットで調べた／購入した――などの広告効果が把握できるようになったのである。

実数調査の究極の姿は、〝テレビ×デジタル×商品購入〟という、AIDMAの川上から川下までの見える化だ。このためにテレビの視聴データから購買データまでの整備が不可欠で、ここに挑戦する動きも出始めている。

しかも、特定データと呼ばれるテレビ視聴データから、その人のWeb活動や商品購入までを明らかにすることで、マーケティングを強化する動きも出始めている。

まずネット接続テレビのデータから、家族構成を推定する。次に個人特性で視聴集計し、個人ごとのCM接触を判定する。ここに「ACR／ex」を活用して、個人プロフィールを付与していく。

かくして特定データで分かる情報と同等の分析を、非特定データたる実数調査でもできるという。

現実の動きを見渡すと、VR以外にテレビCMにかかわる電博など代理店も統合マーケティングの領域に出てきている。他に特定データで新たに名乗りを上げた企業がある。非特定データでも、テレビ局をはじめ複数のプレイヤーが登場。さらに購買データの部分でも、いくつかの企業が名乗りを上げている。

これは、従来のような視聴率でのVR独占状況ではなくなり、視聴データ戦国時代が到来したことを示している。どの企業が大きく歩を進めるのか、注目される状況なのだ。

★異なるスタンス

特定データの動きに対して、VRは異なるスタンスをとっている。あくまで現状の視聴率調査を基本とし、これに個人までは特定しないテレビの実数調査を絡める手法だ。いわばサンプルと非特定の実数調査を連携させた手法なのである。

特徴は同社が持つ大量の生活者データベース「ACR／ex」を活用し、実数データを拡張推計して、特定データと同様の意味を持たせるやり方だ。

詳細はHP（http://jisedai-media.main.jp/）で。

次世代メディア研究所は、5月31日に「視聴データ新時代へのビデオリサーチ新戦略」をテーマにしたセミナーを開く。

ここでは、〝データ×メディア〟で視聴率はどう進化するのか、その時VRはどんな調査会社に進化するのかを探る。

KOBA 2019



2019年5月22日~25日
韓国ソウルのコエックス

第29回 韓国国際
放送音響照明機器展

29th KOREA INTERNATIONAL BROADCAST AUDIO & LIGHTING EQUIPMENT SHOW

KOBA, アジアの
メディア産業のハブ。

スマートトレンドとコンテンツが結合した新しいパラダイム。
30カ国から1,000以上の出展社。
うち韓国からは250社。
60カ国から4万人以上が参加。

国際放送音響照明機器専門セミナー。
世界のメディアフォーラム

ORGANIZERS
Korea E & Ex Inc. | Korea Broadcasting Engineers & Technicians Association

Contact . Korea E & Ex Inc.
T. +82 2 551 0102　E-mail. koba@kobashow.com

Sponsor
Ministry of Science and ICT　Ministry of Trade, Industry and Energy　Korea Communications Commission

Int'l Certified Exhibition　ufi Approved Event　SEOUL
www.kobashow.com

J:COM／ムービープラス

カンヌ映画祭関連イベント

東京ソラマチ内で開催

ジュピターテレコム（J:COM）と、今年開局30周年を迎えるCS映画専門チャンネル「ムービープラス」を運営するジュピターエンタテインメントは、「第72回カンヌ国際映画祭」（以下、カンヌ映画祭）の授賞式の模様をムービープラスが日本独占生中継することを記念して、特別イベント『カンヌ映画祭スペシャル2019』を5月24日まで東京都墨田区の東京ソラマチ内「J:COM Wonder Studio」で開催中だ。


カンヌ映画祭　第71回授賞式の様子
（写真:ロイター/アフロ）

イベントでは、レッドカーペット上でスターの気分を味わえるフォトスポットをはじめ、歴代のカンヌ映画祭オフィシャルポスターの展示やクイズラリーなどを実施。

22日には、昨年のカンヌ映画祭で是枝裕和監督が『万引き家族』で受賞した「パルム・ドールトロフィー」の実物を限定公開。さらに今回初披露となる海外スターのものまねメイクに挑戦する「ざわちん」のスペシャルトークショーも開く。

ムービープラスは、2001年から「カンヌ映画祭授賞式」を日本独占生中継している。今回は、5月26日午前1時15分―5時に放送する。

関東エリア90市区町村で都市ガスの小売開始

J:COMグループ

ジュピターテレコム（J:COM）のグループ会社であるジェイコムイースト、ジェイコム東京、ジェイコム湘南・神奈川、ジェイコム千葉、ジェイコム埼玉・東日本、土浦ケーブルテレビは、東京ガスの取次事業者として、J:COMの関東エリア41局のうち、東京ガスの都市ガス供給エリア90市区町村で都市ガスを利用している一戸建ておよび集合住宅各戸を対象に、都市ガス小売サービス「J:COM ガス Supplied by 東京ガス」の申し込み受付を開始した。

J:COMは、「J:COM Everywhere」構想のもと、契約者の生活に役立つさまざまなサービスを〝ワンストップ〟で提供することを目指している。2016年4月には、低圧電力小売事業に参入、17年4月からは関西地区において、大阪ガスの取次事業者として都市ガス小売サービスを提供している。

オールインワン型LEDの販売を強化

LED照明メーカーのOPTILED LIGHTING（以下、オプティレッド）は、デジタルサイネージシステムを販売する「サイネージ事業部」を昨年設立した。取り扱うのは、主に同社のグループ会社で大型LEDディスプレー専業メーカーのLighthouse（ライトハウス）の製品である。ライトハウスの本社は香港にあるLighthouse Technologiesで、1997年からグローバルに市場展開している。


中井氏


堀口氏

ライトハウスは日本国内でも10年以上前からLED大型ディスプレーの販売を開始しており、大規模なスタジアム、競馬場、野球場、街頭大型ビジョンをはじめとして多くの納入実績がある。海外では米国・ニューヨークのタイムズスクエアのナスダックビルの壁面やBB&Tセンター、マカオのIR施設で5つ星ホテルの「ギャラクシーマカオ」などに大型LEDディスプレーを納入している世界のトップブランドである。

オプティレッドの取締役兼営業本部長の中井貴士氏は「これまでライトハウスは、日本市場では主にOEMとして、大手メーカーや大手システム会社などに大型LEDディスプレーシステムを納入してきた。昨年からはこれに加えて、照明機器で多くの実績がある当社独自の販売網や営業力を生かし、ブランド力向上を図っている」と語る。

オプティレッドでは、2・5ミリピッチのオールインワン型LED「Dynamic A2・5」の販売強化を進めている。画面サイズは89型と118型の2種類。HDMIからのPC接続やUSBからのデータ読み込み、本体へのデータ保存ができ、またスマートフォンによるデータ読み込み、本体へのデータ保存ができ、またスマートフォンによるリーズナブルで、同クラスの液晶ディスプレーと同様な価格で提供が可能だ。大量のオーダーに対しても香港本社および中国工場で柔軟に対応できる」と説明する。

オプティレッド「サイネージ事業部」

ライトハウス製品主力にブランド力の向上を図る



オールインワンLEDディスプレー

堀口氏は「東京五輪や大阪万博などを控えて、今後4K対応など高精細LEDディスプレーのニーズは高まると考えられる。しかし高精細になればなるほどLED素子を数多く使うので、価格が高額になり、また消費電力も上がるという課題があった。当社製品は価格面、消費電力面どちらの課題もクリアした画期的な製品といえる。サイネージ市場を中心にレンタル、イベント、スタジアムなど幅広い市場に訴求していきたい」と意欲を示している。

さらに「近年、日本市場でも中国メーカーのLEDディスプレーの台頭が目立つが、ライトハウスは10年以上前から日本市場に進出しており、信頼性や実績では他のメーカーを凌駕（りょうが）している」と語っている。

オプティレッドは、昨年10月に幕張メッセ（千葉市美浜区）で開かれた「CEATEC JAPAN2018」のセミナー会場の入り口で、ライトハウス製のオールインワンLED（118型、2・5ミリピッチ）を展示した。

堀口氏は「展示会の事務局に使ってもらい、視認性の良さが好評だった。このような展示会などでの活用にも便利な製品である」としている。

ライトハウスジャパンのセールスエンジニアリングマネージャーの堀口圭介氏は「この製品は、サイネージ市場で広く普及している液晶ディスプレーと同じように、電源を入れるだけですぐ使えるのが大きな特徴。価格

EXA RENTAL 4K
EXA INTERNATIONAL
中継、システム系機材を中心に、幅広いラインナップの機材をご用意。映像製作現場でのあらゆるニーズにお答えします。　※地方への発送も承ります。


12G/3G/HD ビデオスイッチャ
HVS-1200


4K/HD ビデオライタ
FVW-700-4K


12G-SDI対応
マルチパーパスシグナルプロセッサ
FA-9600


映像/音声遅延時間調整装置
EDA-1000


マルチビューワ
MV-4320


マルチビューワ
MV-1220


4Kモニタ・波形・レコーダー
BVM-X300 / LV5300 / KiPro ULTRA Plus

株式会社 エクサインターナショナル　〒107-0052 東京都港区赤坂2丁目16番9号
TEL：03-5575-3911 FAX：03-5575-3910 http://www.exa-int.co.jp/

東映デジタルラボ×東映デジタルセンター



東映ラボ・テック株式会社
－TOEI LABO TECH－
本　　社　〒182-0022 東京都調布市国領町8-9-1　03(3430)3311
銀座営業所　〒104-0061 東京都中央区銀座3-14-1(銀座三丁目ビル6F) 03(5148)5600
東映デジタルラボ(株)　〒178-8666 東京都練馬区東大泉2-34-5
TEL:03-3867-5009(代表) FAX:03-3867-5147

DSJ2019
デジタルサイネージ ジャパン

新企画 Next Retailing

基調講演／展示会
事前登録制
無料

国内最大級のデジタルサイネージ産業イベント

DSJ　検索

2019年6月12日(水)▶14日(金)
会場／幕張メッセ

基調講演　会場：国際会議場 2F

聴講無料　Webからの事前登録制

6月12日(水)　KB1-08 16:10-17:30

平成から令和へ、デジタルOOHの広告ビジネスはどうなる?


パネリスト
(株)メトロアドエージェンシー
媒体本部 媒体管理局 局次長
金沢 一幸


パネリスト
(株)ジェイアール東日本企画 /
(一社)デジタルサイネージコンソーシアム
交通媒体本部
デジタルサイネージ推進センター長 / 理事
山本 孝


パネリスト
(株)JR 西日本コミュニケーションズ
企画総務部担当部長
兼　東京本部調査企画室長
土屋 樹一


パネリスト
(株)東急エージェンシー
戦略事業本部
東急OOHメディア局
メディア部
由井 永幸


モデレータ
(株)オリコム /
(一社)デジタルサイネージコンソーシアム
OOHメディア本部　OOHメディア局
シニアディレクター / 理事
吉田 勝広

6月13日(木)　KB2-01　9:30-10:10

Power of OOH(仮)


(株)LIVE BOARD
代表取締役社長
神内 一郎

（敬称略）

新企画

Next Retailing

近年、AI/IoTをはじめとするテクノロジー進化の波を受け、リテール業界も大きく変貌を遂げようとしています。少子高齢化・人口減少の影響により今後の労働力不足も懸念される中、これまで以上の顧客体験を提供するために小売経営者たちがいま考えるべきは本格的なデジタルシフトです。本企画では展示やセミナーを通じ、リテール業界における「次」の未来をテーマにした最新ソリューションを事例を交えてご紹介します。

基調講演　会場：国際会議場 2F

聴講無料　Webからの事前登録制

6月12日(水)　KB1-02 10:30-11:10

ドローンと地上配送ロボットが実現する次世代のショッピング体験(仮)


楽天(株)
ドローン・UGV 事業部
ジェネラルマネージャー
向井 秀明

（敬称略）

他にも多数の講演を予定しております。

展示会　**2019.6.12 wed** 10:30〜18:00 / **13 thu** 10:00〜18:00 / **14 fri** 10:00〜17:00
基調講演　**2019.6.12 wed** 9:15〜 / **13 thu** 9:30〜 / **14 fri** 9:30〜
主催　デジタルサイネージ ジャパン 実行委員会　運営　一般社団法人デジタルサイネージコンソーシアム / 株式会社 ナノオプト・メディア
後援　各関係省庁・関係団体　同時開催　Interop Tokyo / Connected Media Tokyo / ロケーション ビジネス ジャパン / APPS JAPAN

お問合せ：E-mail / june-info@f2ff.jp

Copyright(C)2019 NANO OPT Media,Inc. All rights reserved.

2019年4月18日(木)時点

大相撲開催の両国国技館

デジタルサイネージ稼働

会場内での映像利用進む

ネットTVで実況生中継も

日本相撲協会主催による大相撲の令和元年5月場所（夏場所／5月12―26日）が東京都墨田区の両国国技館（国技館）で開催中だ。その国技館では、時代に対応してデジタルサイネージ（サイネージ）などの映像利用が進んでいる。（川田宏之）

大相撲の勝負に動画映像によるビデオ判定（参考）が導入されたのは、50年前の1969年5月場所からで、これは世界のスポーツ競技の中でも最も早い時期でのビデオ判定導入とされている。

一方、多くのスポーツスタジアムで導入されている大型映像システムに関しては、大相撲でも10年ほど前に導入が議論されたことはあったが、その後立ち消えとなり、どの大相撲会場でも設置されていない。つまり大相撲ファンは、競技のリプレイ映像などを会場内では見ることができない。

ただし、大相撲の巡業で大型LEDビジョンなどが常設してある会場を使用する場合には、それを活用することがある。

そうした中で国技館では、正面入り口前には3連の液晶ディスプレーによるサイネージが設置され、入場を待つ人に各種の情報を伝えている。そこから入場すると、60型クラスの縦型大型液晶ディスプレーを使った合成写真の無料サービスが提供されており、大勢の人が列をつくっている。



両国国技館の正面入り口の3連の液晶ディスプレー

場内食堂の「雷電」を利用すれば、館内に大型モニターが設置されており、食事中でも大相撲が観戦できる。

NHKでは大相撲の8K放送を実施しているが、国技館内でその放送を見ることはできない。ただしBS放送などが視聴可能なテレビは設置されており、ここでは外国語放送も放映されている。


60型クラスの大型液晶ディスプレー

本場所開催中には、JR両国駅前に大相撲のイベント・PRスペースが設けられている。ここでは、インターネットテレビ局「アベマTV」が2018年1月場所から始めた大相撲の実況生中継をPRするブースもあった。

大型映像のない大相撲会場内でリプレイを見るためにも、ワンセグやアベマTVの利用が便利だ。大相撲も新たな映像メディアを積極的に取り入れ始めている。

東京ソラマチでイベント
エプソン製映写機を活用
STARS／パーク

STARSとパークは、東京都墨田区の東京スカイツリータウンの東京ソラマチイーストヤード5階「スペース634」において、エプソン製の液晶プロジェクターを使用したフォトジェニック型バルーンアートイベント『RAINBOW SWEETS LAND』を5月9―16日の期間で開催した。

これは、東京スカイツリータウンが今年開業7周年を迎えることを記念し、フォトジェニックに特化したイベントとして話題となった「東京アイスクリームランド」の第2弾として実施。〝7〟にちなんだレインボーと、アイスクリームなどのスイーツをモチーフとした〝かわいい〟フォトスポットをそろえ、プロジェクターやバルーンを使い、カラフルでポップな空間を演出した。

今回の演出に使用したプロジェクターは、レーザー光源搭載のEB―L1000シリーズ、EB―L600Oシリーズ、EB―700Uシリーズの3機種。これらのエプソン製プロジェクターは、投写画面をカメラで撮影するときにノイズが出ないことが特徴。投写面をスマートフォンで撮影すると、インスタ映えをする鮮やかな写真が撮れ、来場者に好評だった。

なお、プロジェクターの設営と運用、コンテンツ制作などは、タケナカとシムディレクトが担当した。


「RAINBOW SWEETS LAND」の模様

メイコー

ビデオウォールコントローラー
主力に映像機器部門の事業拡大

メイコー（神奈川県綾瀬市）の映像機器部門では、IPストリーミング対応ビデオウォールコントローラー「MVC―IPシリーズ」を中心に製造・販売をしている。かつて大型映像向けマルチビジョン拡大装置の大手メーカーとして知られたメイコーマルチアートをルーツに持つ同社の映像機器の事業は、メイコーテックから2017年に本社のメイコーの映像機器部に移っており、上場企業であるメイコーの有望事業部門として着実に事業拡大を図っている。


後藤氏

メイコーの映像機器部門は、主に警察や消防の総合指令システム、交通管制、防災センターなどの映像監視設備で使用される業務用映像機器を販売している。

映像機器事業部長の後藤征司氏は「大型映像システムに必要なプロセッサーやマトリクススイッチャーを得意としている。官公庁のみならず、民間企業でも重要度の増す危機管理分野で当社の映像機器を含めたシステムソリューションにより、社会に貢献することを目指している」と語る。

IPストリーミング対応ビデオウォールコントローラー「MVC―IPシリーズ」は、マトリクススイッチャー、マルチビジョンプロセッサー、各種スキャンコンバーター、システムコントローラーなどのすべての機能を搭載している。


フジタの高精細LEDディスプレーのコントロール用として採用されたメイコーの「MVC-IP」

同社は昨年11月の「InterBEE2018」では、OSレスでIPストリームのデコード・エンコード機能を搭載した新ビデオウォールコントローラーを中心に展示した。

昨年秋には、「MVC―IP」を使用した1・2ミリメートルピッチの超高精細LEDディスプレー（シリコンコア・テクノロジー製）が、フジタのプレゼンテーションルーム（神奈川県厚木市）に導入された。このLED大型映像は3D立体視（120Hz）にも対応し、フリッカーなく、アクティブ3D眼鏡をかけた状態でも、3D CADのモデルデータなどを、輝度十分に見ることのできる環境となっている。

後藤氏は「この製品は当社製の最新コントローラーの導入により、3D映像や3Dと2Dの混在映像の表示などに威力を発揮している。また画像を切り取ってブレンディングなどもできるため、トリミングした画像を重ねたオーバーレイ表示による効果的なプレゼンテーションなども可能」という。

超高精細の大型LEDディスプレーの導入は、国内の監視・制御システム市場でも確実に進んでいる。「警視庁、熊本県警、神奈川県警などで1・6ミリメートルピッチの超高精細LED（三菱電機製）が導入された。三菱電機では自社開発のコントローラーを採用しているが、今後はこのような監視用の超高精細LEDディスプレー用としても、当社のコントローラーは威力を発揮すると思う」と期待を寄せる。

後藤氏は「東京五輪開催に向けて、競技場の映像監視システムにおいても需要が増すことが想定され、顔認証機能などと連携したアクシデントの未然防止のセキュリティーシステムの需要も期待される。当社は海外進出も計画しており、メイコーの海外工場のあるベトナムを拠点にアジア地域での拡販を進めていきたい」と語った。



Leader
プライベートショー
技術セミナー同時開催

■展示会概要
【新製品】●8K対応波形モニターLV5900
●波形モニターLV5600/ラスタライザーLV7600
・4K-IP対応オプション（25Gb/s）
・4K-IP対応パターンジェネレーターオプション（25Gb/s）
・ノイズメーターオプション
●シンクジェネレーターLT4610
・8Kパターンジェネレーターオプション
【従来製品】・ZENシリーズ ・チェンジオーバー ・シンクジェネレーター
・ブリッジ社製 40G IPアナライザー

■基調講演 事前申込制
「将来の放送の発展への期待」
講師：元NHK放送技術研究所長　黒田 徹 氏

■技術セミナー 事前申込制
セミナー1：「SDI技術者のためのIP講座」
講師：弊社 技術開発部　坂本 圭弘 / 辻 真由美
セミナー2：「カラリストによる4K HDRグレーディングについて」
講師：株式会社IMAGICA Lab.　カラリスト 関口 正人 氏 / 山根 暁子 氏

※基調講演・技術セミナーの内容は変更する場合があります。
お申込みは、弊社WEBサイトからお願いします。

■東京会場：トラストシティ カンファレンス・丸ノ内
開催日：2019年6月12日（水）、13日（木）開催時間：10:00～17:30（最終日は17:00）

■大阪会場：ホテルメルパルク大阪
開催日：2019年7月1日（月）、2日（火）開催時間：10:00～17:30（最終日は16:30）

リーダー電子株式会社
本社・国内営業部 横浜市港北区綱島東2-6-33 TEL(045)541-2122(代) 関西(06)6192-1152
https://www.leader.co.jp

ジャパンマテリアル

ソニー、ランドスキップと連携

風景映像で空間を演出



8Kピクチャー ウィンドウのイメージ

ジャパンマテリアルとソニーマーケティング、ランドスキップは16日、事業連携することを発表した。3社は、窓に見立てたディスプレーと風景コンテンツで空間を演出する「4K／8Kピクチャー ウィンドウ」を6月12日から提供する。

屋外の風景を絵画のように切り取ってディスプレーで表示することで、あたかもその場所にいるような体験ができるもの。ホテルやショッピングモール、空港や駅などで利用できる。

窓に見立てた1台あるいは複数台のソニーの業務用4Kディスプレー「ブラビア」に、ランドスキップが提供する4K／8Kの風景コンテンツを映し出し、ジャパンマテリアルが展開するデジタルサイネージプレーヤー「BrightSign」を使って遠隔制御することで、良好なコストパフォーマンスの新しい空間演出を実現する。

ディスプレーは43―85型の6種類の4K業務用ブラビアに対応する。8Kは4Kディスプレー4枚を利用する。

ブラビアは、HDMI CEC制御による遠隔での電源オンオフや入力切替、音声アップ／ダウンが可能。色深度10ビット、明暗差1024段階の4K HDR対応機能が既に検証されている。

同製品は、専用窓型フレームを販売する朝日木材加工を皮切りに、パートナー企業のショールームで展示する。

6月12―14日に千葉県の幕張メッセで開催される「DSJ（デジタルサイネージジャパン）2019」では、展示およびソニーとランドスキップによる共同セミナーを開催する。

デルが発売

75型4Kマルチタッチモニター

複数ユーザーの同時作業が可能

デルは、大型4Kディスプレーを搭載した「Dell大型ディスプレー C7520QT 75インチマルチタッチ4Kモニター」を発売した。価格は59万8800円（税別、配送料含む）。

最大20点のタッチ機能により、複数のユーザーによる画面の同時操作が可能で、スマートで高速なコラボレーションを実現する。

また独自のDell Screen Drop機能を使用した書き込みやブレインストーミングにより、生産性を向上する。タッチによる作業にタイムラグがほとんど発生せず、指を使った注釈の追加やスタイラスでの書き込みができる。豊富な表示方法や高さ調節機能など使いやすさも備えている。

また、4K解像度の75インチ画面に鮮明なテキストと画像を表示することで力強いプレゼンテーションが可能。IPSパネルによる広い視野角により、室内のどこから見ても画面全体で一貫性のある色彩を再現する。

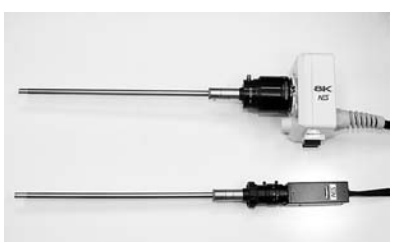
池上通信機／NES

医療用8Kカメラを共同開発

1対1のアスペクト比で小型化を実現



医療用8K解像度カメラ



旧型の内視鏡用カメラ㊤と新規開発の内視鏡カメラ㊦

池上通信機とNHKエンジニアリングシステム（NES）は、アスペクト比を1対1とするスクエア（正方）イメージング技術と、有効対角長8・8ミリメートルの小型センサーを使った医療用8K解像度カメラ「MKC―820NP」を共同開発した。業界で最小だという。NHK放送技術研究所で5月30―6月2日に開催される「技研公開2019」のNESブースで展示される。

池上通信機はこれまで、小型軽量の高画質、高感度の医療用カメラ開発に取り組み、手術顕微鏡用および術野カメラシステムなどで実績を上げてきた。8K技術は、2002年の4CCDカメラ開発から開始し、10年には五輪などのスポーツイベントで実用化、15年には小型ハンディタイプのカメラを開発してきた。

NESは16年度からの3年間、日本医療研究開発機構（AMED）「8K等高精細映像データ利活用研究事業」の支援により、8Kスーパーハイビジョン技術を使った硬性内視鏡手術システムの開発と高精細映像データの活用を検討する研究において、腹腔鏡用8Kカメラシステムを開発し、臨床試験を通して有効性を検証した。

この腹腔鏡用8Kカメラは、1・7型のアスペクト比16対9のイメージセンサーを持つ放送用カメラを改造したもので、質量は720グラムだった。高精細で広視野という8K映像の特徴を利用して、電子ズームで患部を必要に応じて拡大表示する手法の有効性が確認されたが、カメラの取り回しのしやすさや鉗子操作時の干渉など、重さと大きさに課題があることも明らかになった。

今回のMKC―820NPは、池上通信機の医療市場での映像技術とノウハウ、放送で培った8K開発を基盤とした技術、およびNESの8K腹腔鏡カメラ開発および臨床試験の経験とノウハウを投入。従来より質量で1/3以下、容積で1/7以下を実現した。カメラスタンドでの半固定および手持ち運用ができる。

スクエアイメージングは、円形の視野を持つ光学機器全般と親和性が高く、医療に限らず、望遠鏡、監視やVR用の360度撮影カメラなど多様な利用が考えられる。今回のカメラは、これらにおける小型カメラとしても利用できる。

今後は、内視鏡用カメラに必要なオートフォーカス機能の実現を図り、さまざまな用途を開拓する。



スタッフをお探しの企業様お気軽にご相談を！
www.fellow-s.co.jp クリエイティブ業界専門の人材エージェント
国内11拠点にてクリエイティブ業界を幅広くサポート（東京・札幌・仙台・新潟・金沢・名古屋・京都・大阪・広島・福岡・沖縄）
FELLOWS Creator's Agent since 2003
株式会社フェローズ　東京都渋谷区恵比寿西1-7-7　EBSビル5F
TEL：03-5728-5580　※恵比寿駅徒歩1分



映像編集に必要なスキルを身につけられる講座内容をそろえました！
・作品応募を目指す！シナリオライターへの道 前編
・使ってる？ Adobe 新機能を使いこなそう！最新講座〜映像編〜
・SNS で目を引くセンスの良い動画の作り方講座
クリエイティブセミナー各種開催中！
セミナー開催日・内容などの情報、お申し込みは下記 URL よりお願いいたします
http://www.fellow-s.co.jp/academy



日本中のクリエイターを応援する株式会社フェローズ運営のWebマガジン
CREATORS STATION
クリエイターズ ステーションがリニューアルしました!
企業の皆様！
ニュースや PR 情報等の投稿が無料で可能！
※何件でもご投稿いただけます
ご登録いただくと無料でお使いいただけるニュース投稿機能やギャラリー機能など情報発信ツールとしてご利用ください!
http://www.creators-station.jp/

POMFORT fn LiveGrade PRO
ポムフォート ライブグレードプロ

ライブグレードで
オンセット・カラーグレーディング

POMFORT fn Silverstack
ポムフォート・シルバースタック
オールインワン撮影素材管理ツール「シルバースタック」

大切な素材管理とカラーの
ワークフローをシンプルに。

tools ON air just:in
ジャスト イン
多チャンネル ベースバンド インジェストシステム

- 多チャンネル同時収録
- 4K / HD対応
- スケジュール収録
- 同期収録
- 各種コーデック
- mxfへの収録
- 追っかけ編集対応
- RS422 VTR制御

tools ON air just:play
ジャスト プレイ
Macで構築する番組自動送出システム
4K&HD対応／サイマル送出／IPストリーミング
コーデック・解像度混在に対応／自動ルーター制御
強力なCGレイヤ／フェイルオーバー対応／ライブフィードCSV・XMLプレイリストインポート／ルーター制御


プロジェクト共有・管理 編集コラボレーションシステム
STRAWBERRY
PROJECTIVE
「Strawberry」は、Avid、Adobe Premiere、Final Cut Proなど、プロフェッショナルビデオ編集環境のネットワーク共有ストレージ上で、独自の仮想抽象化レイヤ技術でプロジェクトとコンテンツ、ユーザーとグループを管理。プロジェクト共有とプロジェクト管理を実現し、より高度な素材データ共有を効率化する編集コラボレーションシステムです。

えいぞうこ
EIZOKO
NAS機能つきアーカイブアプライアンス
シナジー「EIZOKO」は、LTOテープへのアーカイブとアーカイブ後のデータ活用を快適にする機能を備えたアーカイブシステムです。簡易MAM機能を備えたArchiware P5 ArchiveをストレージOSに統合し、あらゆるメディアデータをLTOで保管・管理。映像や音声データをプロキシムービーとともに保管するだけでなく、WordやPDF、予算管理などのExcelデータまでのすべてをLTOにアーカイブし、インデックス管理します。


ROOT6 TECHNOLOGY
ファイルベース ワークフロー自動化ツール
CONTENTAGENT
・映像・音声ファイルの自動トランスコード
・ノードベースのGUIで自動化ワークフローを構築
・メタデータ抽出・改変　・QCチェックツールとの連携
・GPU処理によるフレームレート/解像度/IP変換

映像用途に特化した国産NASストレージ
MIDO NAS

ARCHIWARE
アーキウェア ・ P5アーカイブ
P5 Archive
LTO等にデータを長期保管 メディアアセット管理機能搭載

Synergy 株式会社シナジー　www.synergykk.com　03-4563-1901

NABSHOW Where Content Comes to Life レポート

NABスミス会長が近況を報告

放送関連法規の刷新を提案

NAB（エヌエービー／全米放送事業者協会）のゴードン・スミス会長は、4月8日午前9時から始まったオープニングセッションで登壇し、業界の状況を報告。放送事業者への規制緩和とネットメディアへの規制検討を求めた。

スミス会長の講演は「人々が信用できる情報と信頼できるニュースソースを（ネットで）検索するとき、各地の放送事業者の役割はより重要になる」として、信頼されるメディアたることの重要性の指摘から始まった。

「以前は、信頼されるメディアとして各地の新聞もあったが、彼らはインターネットとソーシャルメディアの力を過小評価した」と、上品な表現でローカル紙の敗北と消滅を描写した。

その上で「われわれの競争相手（ネットメディア）は、ローカルニュースの配信が少ないと文句を言ってくる」と、各地の新聞を潰したネットメディア側の身勝手さを示した。そして「彼らは、われわれが持っているような地元との結びつきは作れないだろう」と、各地の放送事業者の努力を讃えた。

ロビー活動については「NABは首都において、政策立案者とすべての国民に、放送事業者に対していて何ができるかを説いており、また彼らが求める地域とともにあるということが、放送事業者の力になっていることを伝えている」と報告した。

立法府に対しては「放送ジャーナリズムが活動できるように、時代遅れになった放送関連法規を刷新し、IT企業やペイTV企業と同じ土俵に立てるようにしてほしい」と提案した。また、「IT業界への規制を強化して、これらの会社が競合を押しつぶしたり、ローカルニュースの財政的多様性を圧迫したりしないようにすること」との提案もした。

次世代放送方式のATSC3・0については「次世代テレビばかりでなく、次世代のモバイル機器にも、携帯電話（FM）放送受信機能をオンにすることを拒んでいる」とIT業界を批判した。

米国では、周波数の再編成のため「1000近くの放送局が、モバイルフォンの製造事業者がATSC3.0受信ユニットを手に取って見せた。期待の放送局が、モバイルフォンに付加するATSC3・0受信ユニットを示す一方で、スマートフォンの製造事業者が業界に場所を空けるために2020年にかけて周波数（チャンネル）を変更する。われわれは、国民のローカルテレビ局とラジオ局へのアクセスを確保するため、FCC（連邦通信委員会）や議会と協力していく」と業界とNABの努力を再確認した。

講演では、NAB本部が今秋に議会近くに移転することも報告し、新しい建物のイラストも披露した。スミス会長は「放送事業の将来は明るいとのメッセージを立案者に送り、われわれの事業と約束を強固にする政策のために（NAB）は戦っていく」と決意を新たにした。


ATSC3.0受信ドングルを装着したスマートフォンを見せるスミス会長


新たに建築されるワシントンDCのNAB本部（イメージ図）

IT業界への規制は強化へ

ドルビー ドルビービジョン／アトモス前面に クラウドエンコードサービス登場



ドルビーアトモス ミキシングの実演

ドルビーラボラトリーズは、最上級の映像体験環境を実現するための映像・音声方式「ドルビービジョン」「ドルビーアトモス」を前面に打ち出した。同方式で制作された映画や放送用コンテンツをデモする一方、クラウドでのエンコードサービスなどもアピールした。

ドルビービジョンは、Pulsarという輝度4000nitのドルビービジョンHDRモニターでグレーディングなどが実施されたHDRマスターを、ドルビービジョン対応の上映システムで上映したり、対応テレビ向けに配信したりする方式。

ドルビーアトモスは、ドルビーが、映画館やホームシアター向けに開発したサラウンド記録再生フォーマット。チャンネルではなく、音声オブジェクトの概念を導入していることが特徴で、サウンドトラック制作者が音声オブジェクトによって、音声を、映画の3次元空間内のどこにでも正確に配置したり移動したりできる。

映画館が、ドルビーのツールに、劇場のスピーカーの数など再生環境をインプットし、コンテンツを再生すると、ドルビーアトモスシネマプロセッサーが、入力情報に応じて、映画館の前面・背面・側面・天井のどのスピーカーを使って再現すれば最適なのかを判断。劇場の環境に応じたリアルなサラウンド音声を再生する。

ブースでは、5・1・4chの設定で、Netflix製作の映画『ロスト・イン・スペース』のハイライト映像はじめ、ドルビービジョンコンテンツが提供されている。

また、ブラジルのTVGloboの放送コンテンツをどうミックスしたのかなどを説明した。


TV Globoのドルビーアトモス コンテンツ制作の説明

ドルビーアトモスによるコンテンツをデモ。両フォーマットは、iTunes、Netflix、アマゾンおよび、ATSC3・0の中に含まれているコンテンツの音声を聞きやすくするアナログのエンハンスメント機能などを実演。新たな展開として、クラウド上で、ドルビービジョン／アトモスのコンテンツをエンコードするサービスも提案していた。

ドルビービジョン／アトモスのポストプロワークフローも実演。TVGloboの放送コンテンツをどうミックスしたのかなどを説明した。

スピンデジタル 8Kストリーミング ソリューション実演

ドイツのスピンデジタルは、台湾の産業用コンピューターメーカーであるアドバンテックのブースで、8Kストリーミングソリューションを展示した。NHKテクノロジーズ（旧NHKアイテックと旧NHKメディアテクノロジーが合併）が協力している。

アドバンテックのVEGAプラットフォームをベースとしたエンコーダーと、スピンデジタルのH・265ソフトウエアプレーヤー「スピンプレーヤー」で構成する。展示では、シャープの8Kカメラから12G-SDI4本でエンコーダーに入力したライブ映像と、ファイルの映像をブース内の2カ所で再生した。

スピンデジタル アジアパシフィックの永良彰英社長は、「ネットワークを経由させ多対多で配信している。特殊な開発モデルではなく商用製品を利用したのも特徴。将来的にさまざまな可能性がある」と話している。



8Kファイルの再生

TriCaster® Mini NDI® セットキャンペーン

NewTek
NDI|HX PTZ-1

・式典のライブ中継（学校行事、成人式）
・屋内音楽ライブ、講演会、市町村議会中継
・結婚式会場の収録・中継・配信
・企業内放送配信、監視用…など

LANケーブル1本でカメラ映像・音声相互通信制御が行えます。



カメラコントローラ
モニターは別売
TriCaster Mini HDMI

キャンペーン価格 ￥1,780,000（税別）

※IPネットワークには NDI(Network Device Interface)を採用しております。
＊キャンペーン期間：2019年2月7日～9月30日ご注文分まで。

NDI|HX PTZ-1、Connect Spark、BirdDog Studio 国内販売総代理店
株式会社ブレーンズ・システム
〒243-0402 神奈川県海老名市柏ヶ谷４６１－１
TEL 046-244-3321 FAX 046-236-3853
Mail:sales1@brains-system.co.jp

IPとソフトウエアベースの世界を拡大

NewTek NABショーで多様な新製品

NDI®の最新バージョン発表

放送・映像業界における世界最大級の祭典「NABショー2019」では、SMPTE「ST2110」をはじめとしたIP技術が急拡大した。中でも、NewTekおよびVizrt社が発表したソフトウエアベースの製品群は、IPベースのビデオ制作の可能性を広げるものとして注目された。両社はさらに、独自のIP伝送技術「NDI®」を「NDI4」にアップデート。ライブおよびポストプロダクションの工程を変革する機能を実現している。

ユーザーのストーリーテリング支援

NewTekが発表した新製品は、IPをベースにしたソフトウエア駆動の新製品となる。新しいオートメーションシステムやライブ制作用ソフトウエア、4Kベースバンドからの変換フォン向けの縦長アスペクトにも対応するのが特徴だ。ここでは、カメラを横に向けた横長の映像およびそこからの切り出しや、縦に持って撮影したスマホからの入力を使用できる。各入出力チャンネルの画像を0、90、180、270度回転することができ、上下左右の反転や、内部のミックスエンジンを使った切り取りや合成も可能であり、さまざまな組み合わせを実現することができる。

また、「VMC1」モデルの全機能が、サブスクリプションのソフトウエアとしてリリースされる。ターンキーと同様、TriCaster®TC1やIPシリーズで機能を拡張するソフトウエア群およびコンテンツの提供を受けられるサブスクリプションライセンス「Premium Access」は、すべてのTriCasterで利用可能になった。

ここには、マイクロソフト「Word」で書いたスクリプトに、アクションのトリガーを書いて読み込むとオートメーションで動作する「Live Story Creator」機能を搭載する。スクリプト部分は日本語にも対応する。

マルチスクリーン配信への対応が必須になってきたことから、スマートフォン向けの縦長アスペクトにも対応するのが特徴だ。ここでは、カメラを横に向けた横長の映像およびそこからの切り出しや、縦に持って撮影したスマホからの入力を使用できる。各入出力チャンネルの画像を0、90、180、270度回転することができ、上下左右の反転や、内部のミックスエンジンを使った切り取りや合成も可能であり、さまざまな組み合わせを実現することができる。

また、「VMC1」モデルの全機能が、サブスクリプションのソフトウエアとしてリリースされる。ターンキーと同様、TriCaster®TC1やIPシリーズで機能を拡張するソフトウエア群およびコンテンツの提供を受けられるサブスクリプションライセンス「Premium Access」は、すべてのTriCasterで利用可能になった。

ここには、マイクロソフト「Word」で書いたスクリプトに、アクションのトリガーを書いて読み込むとオートメーションで動作する「Live Story Creator」機能を搭載する。スクリプト部分は日本語にも対応する。

マルチスクリーン配信への対応が必須になってきたことから、スマートフォン向けの縦長アスペクトにも対応するのが特徴だ。ここでは、カメラを横に向けた横長の映像およびそこからの切り出しや、縦に持って撮影したスマホからの入力を使用できる。各入出力チャンネルの画像を0、90、180、270度回転することができ、上下左右の反転や、内部のミックスエンジンを使った切り取りや合成も可能であり、さまざまな組み合わせを実現することができる。

最新モデル「TriCaster 410 Plus」は、外部入力8、ME×4、ミックス出力×4およびNDIでの制作環境構築が可能。ラックマウントシステムには、リアルタイムのSNS配信やライブストリーミング、マルチチャンネル収録、ビデオ再生、内蔵マルチビューワー、グラフィックス、合成、バーチャルセット、オーディオミキシングが含まれる。

コンバーター「Spark Plus™」には、4K UHD、1080p HDMI－to－NDI変換を含む2つのモデルが加わった。

Sparkは、接続されたカメラやデバイスからビデオを直接キャプチャし、実質ゼロレーテンシーで視覚的にロスのないNDIとして、ネットワーク上で転送することができる。つまり「4K UHDまたは1080pのビデオソースをネットワーク上のあらゆる場所から取得し、IPベースのビデオ制作に統合する、最小で最速、かつ最も簡単な方法」（同社）であり、新しいNDI収録機能と組み合わせることで、使いやすいマルチカムキャプチャーを実現する。



マルチ配信に向けた機能を拡充

◆NDI4を発表

NewTekのNDIは現在、最も幅広く支持されているIPソリューションの1つだ。発表されてからの過去3年間で、業界のトップブランド70社がサポートし、ライブSOレコーディングすることが可能。またビデオファイルのヘッダーだけでなく、すべてのフレームにタイムスタンプが付されるため、ノンリニア編集システムに読み込むとすべてのチャンネルが同期され、マルチカメラ編集が可能になる。編集システムは現在「Premiere® Pro」が対応している。

NDI4は、ビットレートを上げることなくビデオ品質を向上し、16ビットのビデオパスや多くの入出力カラーフォーマットのサポートを含み、さまざまな分野での効率を大幅に向上する。また、ディスカバリーサーバーの使用をサポートするため、サーバーまたはクラウドを使ってすべてのソースを調整および接続することができる。さらにNDI4はEpic Gamesの「Unreal® Engine」をサポートする。Unrealは主にゲーム制作におけるリアルタイム3DCG制作に使われる。映像業界でも、その高い品質を生かしたリアルタイムレンダラーとして活用される場面が増えており、VRやARも有力な用途の1つだ。今回のサポートにより、NDIソースにUnrealで作られたアプリを表示することができるため、制作の可能性がさらに広がることになる。


クロス氏㊧とヤコブセン氏

ソニーがIP 4Kパンチルトズームカメラ「BRC－X400」をNDI対応させたことも大きなニュースだ。パンチルトズームカメラは、リモートプロダクションなどの用途で注目されており、同社がNDIに賛同したことで、ユーザーにはさらに広い選択肢が用意されることになる。

◆Vizrtに買収

NewTekは、放送用リアルタイムグラフィックス製品で知られるVizrtによって買収されることを発表している。

4月7日には、ラスベガスコンベンションセンターでイベントを開催。NewTekのアンドリュー・クロス社長兼CTOは「NewTekは、ソフトウエアベースで製品を構築するとともに、『ストーリーをつくる人を支援する』というビジョンを持つ」と説明。業界の将来について、古くからの友人でVizrtの創業者であるペーター・ヤコブセン氏と話し合った際、その世界を広げようと意見が一致したという。

この買収では、NDIプロトコルやプロダクションシステムを開発してきたNewTekと、革新的なテンプレート駆動のリアルタイムグラフィックスシステムを考案し、放送業界に浸透させてきたVizrtが融合する。

合併会社はこれにより、幅広い製品ポートフォリオを扱うのと同時に、ソフトウエアベース技術の研究開発を、クロス氏の指揮のもと共同で実施することになる。Vizrtはハイエンドの放送事業者を主な顧客としてきた一方、NewTekは幅広いコンテンツ制作者に受け入れられてきたことから、顧客層が重なることもない。

両社は今後、コンテンツ業界を取り巻く環境がめざましく変化するなか、映像によりさまざまなストーリーを伝えたいとするすべての市場のユーザーに、IP技術の強みを生かした柔軟なソリューションを、より使いやすい形で提供することを目指していく。



プレゼンテーションの様子



Live Story Creator のデモ

拡大する人工知能の利用

AI（人工知能）のコンテンツ制作への利用が広がっている。NABショーで多様なAIが見られたことは、4月15日号のこの欄で伝えた。AIといっても大変に幅広い。「バレ消し」を支えるAIから「AIアナウンサー」まで多種多様だ。AIの存在が明示的なもの、背後に隠れたものなど種々存在する。前回の報告は、検索や最適化分野での利用であった。今回は映像コンテンツ制作に特化したAI利用についてまとめた。

（杉沼浩司）

★使えるAI

AIの利用が急速に広がっている。AIの代表的な方式である「ニューラルネットワーク（以下、NN）」や、これを進化させた「ディープラーニング（深層学習／以下、DNN）」が利用しやすくなっている。

以前は、NNやDNNを、基本的な部分からプログラミングしなければならなかった。最近は、高機能のライブラリーが無償公開されており、これを使って容易にプログラミングができる。また、理工学用のツールでは、NNやDNNをどのように構成すると能力を発揮するか、ということを容易に検証できる。

NNやDNNでは、いくつかの「層」を構成し、その層の中に「要素」を置く。層の数、要素の数で性能が変わってくるが、闇雲に増やせばよいというものではない。これらが多いと、学習に時間が掛かるのだ。

また、真に良好なところではなく、一見答えがあるように見えるが実は見当違いな回答をしてしまう「過学習」なる現象も回避しなければならない。そのための手段を、どのように取り入れるかなど、NNやDNN設計者の頭を悩ませる問題だ。有名なところでは、人が見つけて、監督官庁である連邦通信委員会（FCC）がCBS放送に対して55万ドル（直営局1局あたり2万7500ドル＝計20局）の罰金を科した。

しかし、CBSは自社の管理外での出来事として反発し、裁判となっていた。最高裁まで上告された後、高裁に差し戻しがあり、その高裁判決後、再度最高裁に持ち込まれるという複雑な過程を経た。5度目の判決となる最高裁判決はCBSを支持し、12年に無罪が確定した。



ハーモニックはAIによるレート削減をデモした。写真はフレームレート削減で30％以上レート削減した例

NAB SHOW Where Content Comes to Life™ レポート

コンテンツ制作の効率化実現

生放送時の不適切映像にも対応

質の良いデータが集められたか否かで性能が決まってくる。

★AIエンコーダー改良

米ハーモニックは、AI技術によるエンコード改良をデモした。デモは、製品ではなく技術の公開である。

技術は3つに分かれ、目標ビットレートの動的な変更、解像度の動的な変更、フレームレートの動的な変更――である。それぞれのパラメーター選択に、AIが活躍する。

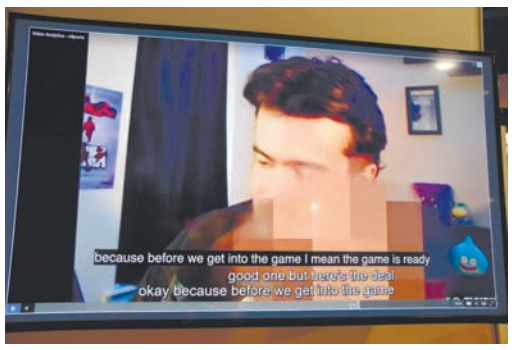
ビットレートの削減は、CBR（固定ビットレート）、VBR（可変ビットレート）のいずれのモードであっても効果を持つ。多くの学習画像を用いて、高画質を得る適切なパラメーターを取り出し、これらの画像の傾向を学習する。エンコーダーへの入力から、どの画像傾向に合致しているかをAIが見つけ出し、その際に使われたパラメーターを利用するものだ。

ハーモニックは、従来のVBR比で20％のビットレート削減を目指している。

動的解像度変更は、シーンを見て必要な解像度を選び出す。例えば、変化の少ない画像では解像度を落とし、細かな部分が多い画像ではソースの解像度を維持するといったものだ。

また、動的フレームレート変更は、シーン内の動き量に応じてフレームレートを変える。動きが少なかったり、目立たなかったり、といった高いフレームレートでなくても画質を維持できる場合に適用される。

これらの「入力が基準に合致しているか」を判断する部分と、「ならば、どのパラメーターとするか」の「衣装の故障」によといった部分にAIが使われる。いずれも、「選択」のための手段である。



IBMの「ワトソン」は、自動的に不適切なジェスチャーを発見してモザイクを入れる

★放送禁止を自動排除

生放送時の不適切発音や不適切映像への対応は、関係者の頭を悩ませる問題だ。有名なところでは、2004年のスーパーボウル中継で、出演した歌手の「衣装の故障」によって不適切映像が流れた事件がある。この件は、連邦通信委員会（FCC）が放送禁止用語を発した人物の口もモザイクを掛け、発言が読み取れないように放送している。このような処理にも対応できそうだ。

今回のAI利用事例は、「指示されたことをAIが上手にする」のではなく「何をしたらよいかをAIが見つけ出す」という、一段進んだ利用となった。エンコーダーも不適切発見も意味としては同じである。

もう、人間は送出停止用赤ボタンに手を掛け、ライブの映像を注視しなくてよくなりそうだ。見つけ出すべきことを教えておけば、AIが対応する。

この間、放送機器の側では「遅延送出装置」が登場した。画像を数秒分ハードディスクにためてから送出し、問題があれば人間が「送出停止」ボタンを押すというものだ。数秒間の間に判断する。

今回、米IBMは、不適切画像発見を自動化し、更に不適切部分のみにモザイクを掛ける技術を開発した。

同社のAIである「ワトソン」が処理をする。ワトソンにストリームを与えると、不適切部分にモザイクを入れて返される。ポイントは「不適切」な部分を自動的に判断できるというところにある。

従来は、人が見つけて、モザイクを掛ける範囲などを指定していた。すると、その後のフレームは自動的に対象の動きに合わせてモザイクが掛けられたが、最初に問題シーンを見つけるのは人間の仕事だった。

今回のデモは「中指を立てる」という仕草に対して処理をしていたが、ほかの仕草（例＝ピースサインは、国・地域によっては侮蔑の仕草）も対応可能としている。IBMは「コミュニティーのガイドラインに合致」と題して、このデモを実施した。

今回は示されていないが、放送禁止用語に「ピー」音を被せることも同様に可能とみられる。また、一部地域の放送では、放送禁止用語を発した人物の口もモザイクを掛け、発言が読み取れないように放送している。このような処理にも対応できそうだ。

今回のAI利用事例は、「指示されたことをAIが上手にする」のではなく「何をしたらよいかをAIが見つけ出す」という、一段進んだ利用となった。エンコーダーも不適切発見も意味としては同じである。

もう、人間は送出停止用赤ボタンに手を掛け、ライブの映像を注視しなくてよくなりそうだ。見つけ出すべきことを教えておけば、AIが対応する。



After NAB Show 2019

最新製品が一堂に集結

秋葉原UDX 22、23日開催

業界の最新動向探る

NAB（エヌエービー／全米放送事業者協会）公認イベントとして、日本エレクトロニクスショー協会およびNAB日本代表事務所（映像新聞社）は、4月開催の「NABショー」（米国・ラスベガス）で披露された最新情報を一堂に集め、日本国内のユーザー向けに最新製品を披露する「After NAB Show（アフター・エヌエービー・ショー）Tokyo2019」を、5月22、23日の両日、東京都千代田区の秋葉原UDXで開く。

米国で開催されたNABショーには、メディア、エンターテインメント、テクノロジー、コンテンツビジネスに携わる機器やサービスが一堂に集結する。After NAB Showでは、この世界市場を対象にしたイベントに出展した最新機器やサービスでの成果を、いち早く日本の放送局、映像制作プロダクション、ポストプロダクションといったユーザーに伝える。今回は出展者が計42のブース（共同出展含む）を構え、展示とプレゼンテーションで、日本開催ならではの最新情報を提供する。



各社が最新機器を披露（写真は昨年の様子）

併せて開くセッションでは、デジタル技術／映像制作の取材経験豊富な映像新聞 論説委員の杉沼浩司が「NAB SHOW 2019レポート：IPを軸に急加速する米放送業界～ATSC3・0導入も追い風に」と題し、NABショーでのトレンドを分かりやすく解説するなど、業界の世界的な傾向を把握できる機会になる。

なお、入場は無料だが、ウェブサイトからの事前登録が必要（セッション聴講も同じ）。登録手続き完了メールに添付されている入場証をプリントアウトして来場することで、スムーズに入場できる。

◆開催概要

【期日】5月22、23日／10―18時（セッションは9時から）

【会場】秋葉原UDX（東京都千代田区外神田4―14―1）▽展示フロア：2階「AKIBA_SQUARE」▽プレゼンテーション：4階「UDX THEATER」

【詳細】after-nab.jp

After NAB Show 出展者一覧

出展者名　〈※印はセミナーのみ　50音順〉	
アイ・ディー・エクス	セイコーソリューションズ
アスク／ディストーム	TVLogic
アドビシステムズ※	テクノハウス
アビッドテクノロジー※	デジキャス
アリスタネットワークスジャパン	Too
伊藤忠ケーブルシステム	日本アイ・ビー・エム
EIZO	日本コントロールシステム
AJA Video Systems／アスク	日本デジタル・プロセシング・システムズ
エーティコミュニケーションズ	ニューエックス
エーディテクノ	ねこじゃらし／モルフォ
ATV	バイオス
エヌ・イー・ピー	パナソニック システムソリューションズ ジャパン
エムアイシー・アソシエーツ	ビデオトロン
ANGELBIRD/銀座十字屋	フォトロン
キャムキャスト7	ブラックマジックデザイン
共信コミュニケーションズ	ボーンデジタル
クラウディアン	マクニカ
クロスイメージング	MEDIAEDGE
コスミックエンジニアリング	メディア・インテグレーション/ROCKONPRO
Cominix	ユニテックス
メラノックステクノロジーズジャパン	RAID
シーンズ	ライムライト・ネットワークス・ジャパン※
ジャパンマテリアル	

LEADING ACCESSORIES MANUFACTURE

バッテリー・ケーブル・レインカバー・LEDライト・乾電池・強力アームなど

高負荷出力スーパーミニVマウントバッテリー　Li-D98M-S



弊社従来品と体積比 47% サイズダウン

高さ 102* 全幅 75mm* 奥行 50mm 重量 515ｇ

14.8V 6.6Ah 98Wh

（10A 120Wまで出力可能）

USB・パワータップ出力　各1装備



安全パワータップ　逆に挿してもショートしないDタップ

NPTAPシリーズ



・外観は従来品と変わらず
・コネクタのみ販売可
・XLR4P 等 変換ケーブルも販売

LSPTAPシリーズ



・天面に診断ランプ付 -7 種診断（逆ざし・電圧・電流・熱）
・コネクタ・変換ケーブル

超強力アームシリーズ　耐荷重の高いモニター等用アーム



型番	推奨耐荷重	サイズ
C-AQUARM	約15kg	全長100mm
N-AQUARM-1	約10kg	全長210mm
N-AQUARM-2	約10kg	全長245mm
N-AQUARM-3	約10kg	全長285mm
N-AQUARM-4	約10kg	全長335mm
N-AQUARM-5	約10kg	全長390mm

NEP　エヌ・イー・ピー株式会社

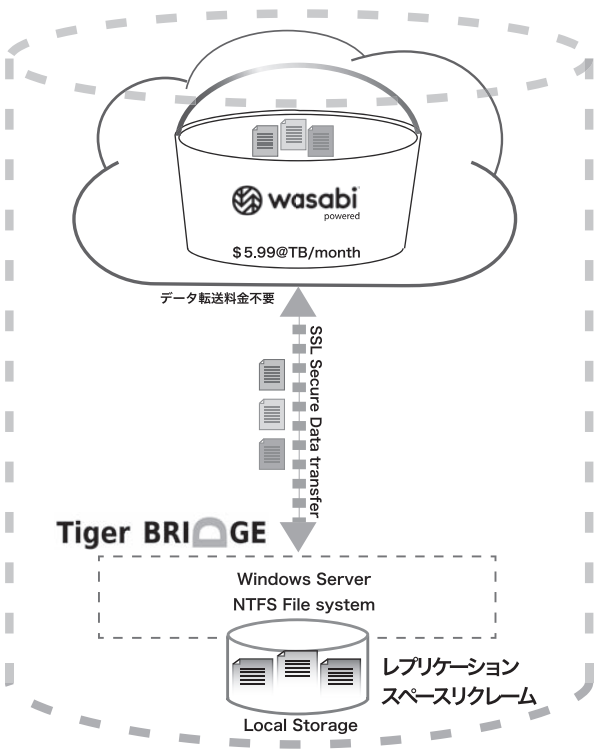
〒102-0074　東京都千代田区九段南3-7-14 VORT九段3階

TEL:03-3263-6741
FAX:03-3265-1297

https://www.nepinc.co.jp

ローカルストレージとクラウドを一つのボリュームに

リッチメディアに最適



圧倒的なコストパフォーマンス

シングルストレージスペース

powered by

wasabi | Tiger BRIDGE

Tiger Technology 社国内総代理店 / Wasabi Technology 販売代理店

エムアイシー・アソシエーツ株式会社

東京都中央区東日本橋 3-12-12　TEL : 03-5614-3757　http://www.micassoc.co.jp

After NAB Show 2019 特集

エムアイシー・アソシエーツ

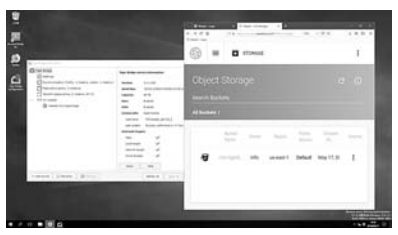
最新のストレージ製品 4K・8K編集向け装置も

エムアイシー・アソシエーツは、Tiger Technology社製「Tiger Bridge 3・5」を発表する。

Tiger Bridgeは、シームレスにローカルストレージとクラウドストレージをブリッジするミドルウエア。ユーザーは、クラウドを意識することなくローカルストレージを使用し、HSM Tiering／Data Life-cycle マネージメントをポリシーベースで実現する。

また、4K・8K対応の映像編集向け大容量データーワークフローエンジンTiger FANを展示。ウィンドウズ、Mac、Linuxをサポート。サンダーボルト3、FC、iSCSI、IBなどのSAN、IP-SAN（40Gb、10Gb、1Gbイーサネット）を混在して接続可能。DAVINCI RESOLVEによるプロジェクトの同時編集や、各社の編集アプリに対応する。

なお、同社はこのほど、Wasabi Cloud Storage（米国・ボストン）と日本販売パートナーを締結した。これにより、ウィンドウズNTFSローカルストレージと、Wasabiクラウドストレージとで構成されるユニファイド・ストレージソリューションの提供を開始する。ユニファイドストレージを構成するSDSソフトウエアとして、Tiger Technology社製Tiger Bridgeを使用することで、ローカルストレージスペースとして効果的に統合する。



Tiger Bridgeの操作画面

フォトロン

快適な編集環境を提供
アビッド最新版などデモ

フォトロンは、取り扱い各社製品を出展する。アビッド製品は、ノンリニア編集システム「Media Composer」の最新バージョンをはじめ、快適かつ強力な編集環境を提供するストレージ「Avid NEXIS｜E4」、NEXISファイル管理システム「Media Central｜Editorial Management」をアセット管理のエントリーモデルとして提案する。



CLIPSTER

ローデ・シュワルツ社からは、4K120p、HDR、ドルビービジョンに対応し、映像制作に必要な多様な機能を搭載した最新のデジタルシネマ・マスタリングシステム「CLIPSTER」を出展。

テレストリーム製品は、トランスコード、フレームレート変換など、ビデオプロセッシングをワークフローデザインによってオートメーション化する基幹ソフトウエア「Vantage」と、高品質なアップコンバート、x264・x265変換を高速化させる「Lightspeed G6 Server」を出展する。

コスミックエンジニアリング

4K／12G－SDIの製品群と新機種を発表

コスミックエンジニアリングは、「4K／12G－SDIをベースにした効率的且つ新たなワークフローの創出」をテーマに、中継・制作・送出監視を支えるさまざまな4K／12G－SDI製品群と新機種を発表する。

コンテンツ管理・監視に適した多機能オーディオ・ビデオ・波形モニター、SP－VM2の12G－SDI／AES32chバージョン「SP－VM2－12G－32」を用いた高効率の4K映像・音声監視をデモするほか、12G－SDI対応のオーディオモニター・メーター計6機種を新たに投入する。



SCA-SP5

放送映像・音声モジュールシステム「C500シリーズ」では、12G－SDI対応モジュール各種発表のほか、直感操作と運用状況把握が容易なウェブコントロールシステムの最新バージョンをデモする。

光ファイバー伝送対応システムカメラアダプターは、4K／12G－SDIバージョン「SCA－SP5／SCA－BU5」の発売を開始。ソニーXDCAM 4Kハンディカメラやショルダーカメラとの接続デモを通じて、運用しやすいフォルムと構築しやすい4Kマルチカム中継運用シーンをアピールする。

エーディテクノ

日本初披露の新製品を出展

エーディテクノは、同社が日本国内正規代理店を務めるDIGITAL FORECAST社がNABショー2019で公開した最新機器を日本国内で初披露する。

HDMI→SDIコンバーター「UHD_HS」は、HDMI2・0信号を12G－SDIとクワッド3G－SDI信号へ変換し、同時出力可能な4K 18Gbps対応コンバーター。クワッド3G－SDI信号は2SIに対応している。



X_TS mini

簡易アナライザー機能搭載コンバーター「X_TS mini」は、5型液晶搭載のHDMI／SDIクロスコンバーターで現在発売中の「X_NEO1_Plus」の上位機種となっている。HDMI／SDIのループスルーチェック機能を新たに搭載した。

そのほか、エーディテクノの新製品4K／30p入出力対応フルHD IPS搭載フィールドモニター3機種「55HB／75HB／75SB」や、フルHD8・9型IPSパネル搭載の業務用マルチメディアディスプレー「LCD8901S」、12G－SDI対応4K UHD12・5型IPS液晶パネル搭載モニター「UH1250S」などを出展する。

エヌ・イー・ピー

バッテリーを大幅に小型化



スーパーミニVマウントバッテリーのカメラ装着図

エヌ・イー・ピーは、バッテリー関係・レインカバー・LEDライトなど、放送機器のアクセサリーを中心に展示する。

今回の目玉商品として、従来比47%サイズダウンしたスーパーミニVマウントバッテリーを発表。同バッテリーは120Wまでの高負荷にも対応している。

また、逆ざしてもショートしないDタップケーブルシリーズ、モニターなどを載せる超強力アーム、リモコンで調光・調色可能なLEDライト、LCDモニターを直視できるレインカバー、カーボン製ブームポールなど新商品を披露する。

Visual Research Inc.

付加価値の創出

After NAB Show Tokyo 2019 出展ブース No. 24

リニア編集、ライブ送出、NLE と連携
ProRes 4444 with Alpha ファイルアウト
CG とテロップを同時に制作

KarismaCG
リアルタイム 3D キャラジェネ

Karisma D-Stream
デジタル録画再生機

KarismaCG x D-Stream Link
(RDL: Real-time Data Link)

Visual Research Inc.（VRI）日本総代理店　ジャパンマテリアル株式会社　東京都新宿区西新宿 6-12-1 パークウェスト 8F　TEL 03-5323-0820　http://www.jmgs.jp

After NAB Show 2019 特集

リアルタイムでグラフィックス処理

ジャパンマテリアル

ジャパンマテリアルは、取り扱い各種製品を出展する。

ビジュアルリサーチ社の「KarismaCG RDL」は、テロップやCG、カット編集も同時にリアルタイムで処理するグラフィックス編集システム。ノンリニア編集とのデータ連携を効率化することで、作業のスピードアップを実現する。

「D-Stream LT」は、XAVC、ProRes、DNxHDなどに対応したマルチコーデック録画再生機。VTRの置き換え・インジェスト・ノンリニアで出力したXMLの読み込みと、多様な場面での活用が可能な製品。リニア編集とファイルを結び、ファイル運用への切り替えも簡単に実現する。


KarismaCG RDL㊧とD-Stream LT㊨

マトロックス社の「Monarch EDGE」は、最大解像度3840×2160（4:4:4/10ビット）対応する放送向けのマルチチャンネルH・264エンコーダー。映像入力としてSMPTE ST 2110や12G-SDIをサポート。中継現場からスタジオに映像をIPストリーミング伝送できる放送の新しいワークフローを提案する。

ハンドヘルド・カムコーダー

パナソニック

「CXシリーズ」新製品

「AG-CX350」を出展する。

AG-CX350は、4K/UHD解像度、10ビットの深度、HDR対応の高画質と、ベストな選択ができる記録フォーマットを備え、さまざまなシーンに応えるクリエイティビティを提供する。


AG-CX350

また、ライブ配信に応えるRTMP/RTSPストリーミング機能、NDI-HX対応のIP接続機能を備え、従来のハンドヘルド・カムコーダーの取材・収録用途を超えて、ライブカメラとしての運用にも対応するコネクティビティを備えている。さらに、軽量・コンパクト・低消費電力のユーザビリティも進化した。

ノンシナリオベースのTVスタイル撮影を中心に、イベント、スポーツ、ドキュメンタリー、報道、ウェディングや、文教市場と、幅広いユーザーのニーズに応える。

「Matrox Xmio. 5」は、合成機能を持ち、CPUの負荷を掛けずにハードウエアベースでIPパケット化に対応する。

ルHDR変換機能、ディインタレーシング機能、

共信コミュニケーションズ

共信コミュニケーションズは、放送局やポストプロダクション向けのソリューションを展示する。Boutiqueは、SGO社の8K/HDR対応ハイエンドフィニッシングシステム「Mistika Ultima」に加え、NABショーに先駆けてリリースされた「Mistika Boutique」を展示。Boutiqueは、ハイエンドターンキーUltimaのMac/ウィンドウズ版で、Ultimaの機能はそのままに各OS上で動作が可能。そのほか、NABショーで発表された新製品Workflow sやVRを含め、新たに追加されたAWSへの対応を案内する。


Mistika Boutique

Quantumストレージでは、新たなラインアップとして「Fシリーズ」、「Rシリーズ」を披露。FシリーズはNVMeを使用した次世代の高速ストレージで、Rシリーズは撮影現場に持ち出し可能なポータブルNASソリューション。

アビッドのソリューションとしては、Media Composer 2019、NEXIS-Cloudspacesをデモする。

伊藤忠ケーブルシステム

「AWS OTTソリューションコーナー」では、NABショーで好評だったOTTソリューションを訴求する。

「Bitmovin新世代エンコーディングソリューションコーナー」は、新興ベンチャーながら映像配信システムシーンの中心に位置しつつあるBitmovinソリューションの中からエンコーディングの先進的アプローチを披露する。

「QCコーナー」は、4K・HDRのファイルQCに対応したVenera Technologyから新たに発表された4K編集ストレージの新シリーズFacilisHUBを展示。

「ファイルベース制作コーナー」は、Telestream Vantage 8とFacilis Technologyから新たに発表された4K編集ストレージの新シリーズFacilisHUBを展示する。

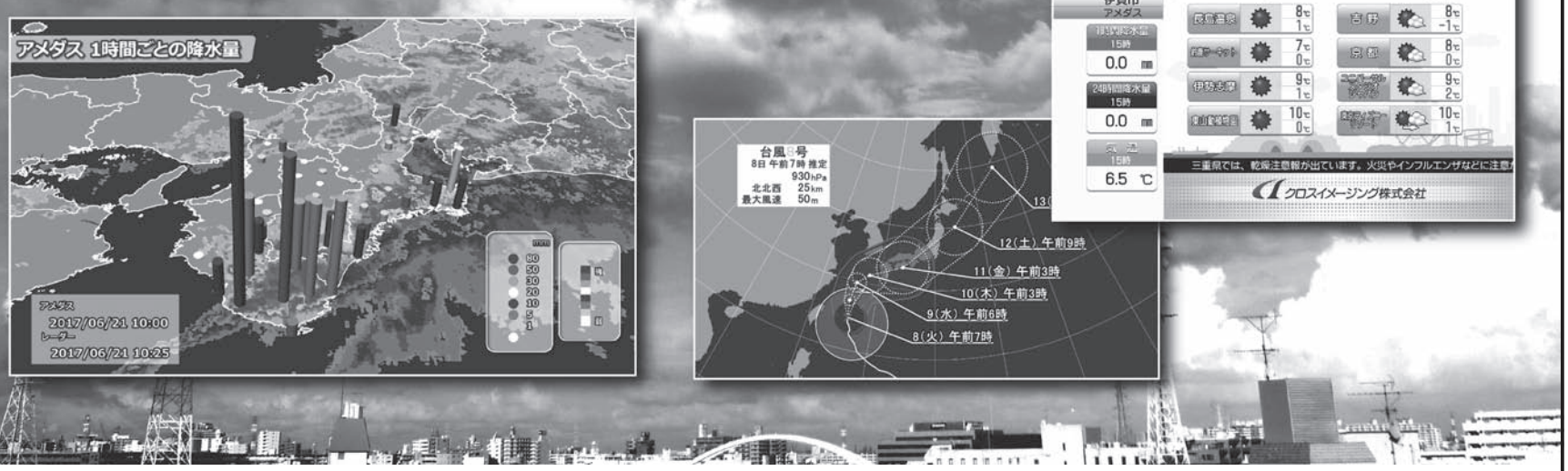
8K/HDR対応の新システム

After NAB Show 2019 特集

緊急地震速報、防災情報、気象情報の
リーディング・システム・インテグレーター

Cross Imaging

HDSDIボード、ドライバ、アプリケーションソフトウェア等、すべて自社で、研究・開発・製造をおこなっております。
高速且つ安定した稼働を実現した画期的なシステムです。



After NAB Show Tokyo 2019

※ご入場には 公式WEBサイト(www.after-nab.jp)での事前登録が必要ですのでご注意ください。

会　期：2019年5月22日(水)・23日(木)
会　場：東京・秋葉原「UDX」
展示フロア：2階「AKIBA_SQUARE」
小間番号：No.37

2019年 出展予定展示会
・東北映像フェスティバル【5/30(木)～5/31(金)】
・ケーブル技術ショー【6/19(水)～6/20(木)】
・関西放送機器展【7/10(水)～7/11(木)】
・九州放送機器展【7/31(水)～8/1(木)】

クロスイメージング株式会社　〒141-0031 東京都品川区西五反田1-5-1 A-PLACE 五反田駅前9F
TEL. 03-6417-9190(代表)　FAX. 03-6417-9195
http://crossimaging.jp/

After NAB Show 2019 特集

アスク／ディストーム

ライブ映像制作システム NDIの最新バージョンも

アスク／ディストーム／リプレイシステムの共同ブースでは、米国「3Play 3P1」、NewTekが推進する業務用SkypeTXを最新のNDIに対応したライブ映像プロダクション製品および周辺機器やソフトウエアを展示する。

主な出展製品は、ライブ映像プロダクションシステム「TriCaster TC1」、スロー／リプレイシステム「3Play 3P1」、NDI｜HX対応PTZカメラ「NDI PTZ Camera」、NDIコンバーター「Connect Spark」。

このほか、NABショーで発表した新製品として、最新のNDIバージョン「NDI4」、「Premium Access」（TriCaster機能拡張ソフト）の新機能「VMCソフトウエア」「TriCaster 410 Plus」「Connect Spark Plus」を出展する。



3Play 3P1

ニューエックス

ニューエックスは、各社の取り扱い製品を出展。cinedeck社製スタンドアローンソフトウエア「cineXtools」は、NLEから最終工程で出力されたファイルに対して直接インサート編集を可能とする。CIS社の4K UHD／フルHD HDR対応スモールカメラは、ソニーPregius IMXグローバルセンサーを搭載。4Kカメラである「VCC-4K2」は4K UHD出力が可能で、BT・2020の色域や最大1200%のHDRを持ちHLG（Hybrid Log Gamma）で出力できる。



防災情報を送出

防災・気象情報などが拡充

クロスイメージング

クロスイメージングは、放送メディアに向けた地震・津波などの防災情報送出システム、気象情報システム、緊急地震速報システム、CATV向けお天気チャンネルシステムなどを出展する。

同社は、迅速かつ正確な情報伝達が求められる放送業界のニーズに対応するため、アプリケーション・ソフトウエアをはじめ、グラフィックスボード、ドライバーや各種デバイスも自社で設計開発し、保守運用サービスまで一貫したソリューションを提供している。

今後気象庁から新たに提供されるGPV（Grid Point Value）などのビックデータに対しても、タイムリーに対応できる体制を整えている。

長年にわたる経験とノウハウを生かし、高速かつ安定稼働を実現している。

エーティコミュニケーションズ

小型軽量の衛星アンテナ


Satcube

エーティコミュニケーションズは、映像音声データーなど緊急中継にも威力を発揮する、業界最小クラス小型衛星アンテナ「Satcube（サットキューブ）」を展示する。同機はノートPCサイズで重量8キログラムを実現。そのほか、機動性に優れた軽量の可搬型衛星アンテナ「QCT90」、「CCT120」などを出展。ATC製SNG車の説明も実施する。

12G対応製品ラインアップ

ビデオトロン

ビデオトロンは、12G対応マトリックススイッチャー「MTX-70U-1616」、12G対応フレームシンクロナイザー「FS-70U」を参考出展、12G対応ラインシンクロナイザー「AVDL-70Uを展示し、12G-SDI対応モデルラインアップを拡充してきた。これにより、4Kシステムを VBUSフレームで完結することが可能となった。今後も4K設備を構築する上で鍵となる12G-SDI製品に継続して取り組み、さまざまな提案をしていく。

また、HDMI入力信号のログ取得ができることにより、HDMI民生機の長期安定運用が可能なHDMI／DVI to SDIコンバーター「HMS-70」を出展する。

4K制作設備が拡大している中、同社のVBUSモジュールシステムは、12G-SDI対応モデルラインアップを拡充してきた。これにより、4Kシステムを VBUSフレームで完結することが可能となった。今後も4K設備を構築する上で鍵となる12G-SDI製品に継続して取り組み、さまざまな提案をしていく。

また、HDMI入力信号のログ取得ができることにより、HDMI民生機の長期安定運用が可能なHDMI／DVI to SDIコンバーター「HMS-70」を出展する。


12G対応16×16マトリックススイッチャー MTX-70U-1616

12G信号システムでカラコレ、同期、スイッチングを実演する。

DIGITAL FORECAST
Booth #33
After NAB show 2019 出展

Bridge UHD _M_OTR
超小型軽量 12G-SDI 対応光延長器
・12G-SDI - 光延長
・SDI 入出力端子 各 1 系統搭載で双方向伝送
・LC シングルモード 2 芯光ファイバーで最長 10km 伝送
・SDI マルチフォーマット（12G/6G/3G/HD/SD）サポート
・超小型軽量設計（W80xH60xD22.5mm、105g）

Bridge UHD _M_DA
超小型軽量 12G-SDI 対応 3 分配器
・12G-SDI 3分配
・12G ケーブルイコライザ＆リクロック搭載
・SDIマルチフォーマット（12G/6G/3G/HD/SD）サポート
・超小型軽量設計（W80xH60xD22.5mm、95g）

ADTECHNO
www.ad-techno.com / info@ad-techno.com
株式会社エーディテクノ
〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町 3-29 FORECAST 市ヶ谷 3F
TEL：03-5206-3330 / FAX：03-5206-3339
［大阪営業所］
〒530-0001 大阪市北区梅田 1-11-4 大阪駅前第 4 ビル 20 階
TEL：06-6131-8389

8K コラボレーティングワークフロー
これまでにないパワフルな制作環境を実現
4K/8K HDR HFR グレーディング
オンラインフィニッシングマシン
:SGO mistika
スケールアウト型・8K共有ストレージ
Quantum Xcellis
POWERED BY StorNext
展示会出展情報!!
After NAB Show Tokyo 2019
5/22水▶5/23木
東京・秋葉原「UDX」 Booth No. 25
:SGO mistika Quantum AVID DALET
■ 共信コミュニケーションズ 映像制作向けデモルームのご案内
製品のデモや素材持込のパフォーマンステストを実施いただけます。
予約制 詳しくは各営業担当または下記までお問い合わせください。
共信コミュニケーションズ株式会社 Kyoshin communications
東京都品川区北品川5-9-11 大崎MTビル3F・4F
TEL：03-3445-2070 Mail：info_mk@kycom.co.jp
kycom.co.jp

PJ総合研究所・ビジネス資料集

PM「プロジェクションマッピング」&
BIG LED「高精細大型LED」&
DS「デジタルサイネージ」&
VR「バーチャルリアリティー」&
イベント&事例
導入資料集『2019』

新発売



・編集＆発行：PJ総合研究所／2019年4月27日発行
取材／川田宏之（大型映像評論家）、
PROJECTORS編集部
・ページ数：128ページ
・販売価格：8,100円／冊（税込、送料サービス）

＜主要記事＞

- プロジェクションマッピング：予算、事業主体、レンタル会社、使用プロジェクター、システム構成など網羅
- BIG　LED：導入場所、価格、事業主体、使用ディスプレイ、システム構成など網羅
- デジタルサイネージ：導入場所、価格、事業主体、使用ディスプレイ、システム構成など網羅
- バーチャルリアリティー：主要メーカーVR事業＆導入事例、HMD、シミュレーターなど網羅
- イベント＆事例：タイムリーな事例中心の紹介

※ 発行の狙い ※

「プロジェクションマッピング」、「BIG LED」、「デジタルサイネージ」、「バーチャルリアリティ」、「イベント＆事例」5つを１冊にまとめた2019年版導入資料集です。本誌は2014年から資料集年鑑として発行しているもので、都合6冊目になります。いずれも実践例、費用などを他では得られないデータを掲載しており大変好評です。デジタルサイネージ、BIG LED、DSなどは導入場所、価格、事業主体、使用ディスプレイ、システム機器＆構成などを詳しく提示しております。これから手掛けようとする事案のある関係の方々は、各種映像システムの設計と手法、効率的運用、設置性、受注方法などの資料が入手できることからも、見過ごせない貴重な参考書です。

※ 発行形態 ※

導入資料集（2019年版）、印刷本（電書として電子書店で併売）

※ 編集形態 ※

掲載の事例は１ケ所を見開き２ページ（カラー）で紹介

映像新聞のサイトから、もしくは必要事項をご記入のうえFAXにてお申し込み下さい。

www.eizoshimbun.com　　FAX 03-3942-2581

お申し込み＆お問合せ／映像新聞社 TEL 03-3942-2161 info@eizoshimbun.com　　**発送／（有）エーブイシー TEL 070-6655-7886**

大型映像年鑑2019 購入申込書

必要部数：　　部	ご住所：
御社名：	
部署名：	TEL
お名前：	E-mailもしくはFAX

「氷上の王、ジョン・カリー」

伝説のアイススケート名選手の一生

数々の実写映像や証言で構成

栄光の裏にある孤独な愛への渇望

アイススケートにおける伝説の名選手、ジョン・カリー（1949－94年）をご存知の方は多くないはずだ。彼は、競技としてのアイススケートを芸術の域まで高めた天才スケーターとして名を残し、「スケート界のヌレエフ」と評された。そのカリーのドキュメンタリー『氷上の王、ジョン・カリー』（2018年／ジェイムス・エルスキン監督、英国製作、89分）がいよいよ公開される。

（中川洋吉・映画評論家）

ジョン・カリーが活躍した時代、わが国におけるアイススケートは、プロ野球ほど関心度は高くなかった。当時トップスケーターで、後に名コーチとして有名な佐藤信夫が、現役時代のカリーを実際に目にしている。しかし、カリーの名はマスコミではほとんど取り上げられなかった。

ジョン・カリー（以下ジョン）は、1970年ごろから全英選手権を5回獲得、76年にはインスブルック冬季五輪の金メダリストとなり、世界的に知られる存在となった。ジョンは英国バーミンガム生まれの生粋の英国人。幼い時からスケートのオ能を見せ、周囲を驚かせた。



「氷上の王、ジョン・カリー」（演目「スパルタカス」）
©New Black Films Skating Limited 2018
©Dogwoof 2018(以下同じ)

この、ジョンの一生を綴るドキュメンタリー『氷上の王、ジョン・カリー』は、現存する関係者や友人の証言により構成されている。さらに、素晴らしいことは、当時の実写フィルムが挿入され、それらの映像によってジョンの人柄が生の感動として伝わる。新たに発掘された珍しい実写からは、彼の芸術的なスケート演技も目にすることができる。

◆ジョンの出発点

ジョンはアーチストになることを夢見て、その手段としてアスリート（スケーター）になる決心が、彼を知る上での出発点となる。彼にとり、そのことは社会に受け入れてもらうことである。具体的には、オリンピックでの金メダルの獲得、メトロポリタン歌劇場で2万人の観客を動員するといったアイスショーの開催がある。

本作は、数々の栄光の後ろ側にある孤独な愛への渇望、病魔に対する不安を複数のインタビューで明らかにする。

◆ジョンの少年時代

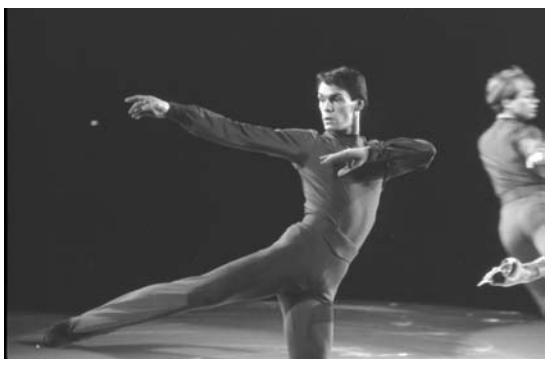
もともと、バレエに傾倒していたジョンは、父親にその希望を伝える。しかし当時、バレエは「男のスポーツ」ではないと、厳格な父親から許されなかった。ただし、「スケートはスポーツだから」との理由で許可され、7歳の時にレッスンを始める。

一家は父親の死後、バーミンガムからロンドンに居を移す。そこでジョンは天才少年ぶりを発揮する。

◆英国を後にしたジョン

閉塞的なロンドンでのスケート人生。ジョンは、突然ニューヨークを訪れる。スケート靴だけを携えての新しい出発である。

当時の実写フィルムで



演目「トリオ」

当するが、女性、特に太めの女性には厳しい一面があった。この辺りを見ても、女性を男性が支えてくる。

◆カンパニーの結成

アマチュア時代に、オリンピックや世界選手権で数々の金メダルを手にしたジョンは、いよいよプロになり、アイス・カンパニーを立ち上げ、自分の考えるアイススケートを実践に移す。世界中でアイスショーを開催し、革新的プログラムで世界を沸かせた。

彼の新しい試みは多くのファンに受け入れられ、ロンドン・アルバート・ホール、ニューヨーク・メトロポリタン歌劇場でも催された。格式の高い両ホールとも、床に配管し氷を敷く特別仕様で、スケートを芸術の域まで高め、バレエのような滑りを披露した。

◆演目

彼のカンパニー公演の実写フィルムが、しばしば映し出される。それは、うまいスケートというよりは、全くコンセプトの違う振り付けであり、それまでにないスケートとバレエとの融合であった。

例えば、演目の1つである『バーン』では、真っ白な衣装のジョンが、リンクいっぱいを低い姿勢を保ちながら滑る場面がある。そして、10人ぐ



ニューヨークのジョン・カリー

らいの赤い衣裳のスケーターの間をジョンが駆け抜ける。シンプルの極限に迫る演技であり、その流動感に観客の目は釘付けとなる。スケーターと振り付けの混然一体感が、熱い高揚感をもたらす。

本作のラストは『青き美しきドナウ』。ブルーの衣裳の4人のスケーターの幾何学的動きで見せる振り付けで、ヨハン・シュトラウスのウィンナ・ワルツ（1867年作曲）に新しい命が吹き込まれている。スケートを越え、バレエへと形を変えた氷上の舞いだ。

◆ジョンの苦悩

ゲイのジョンは、1991年にエイズを発症。今でこそ、新薬のおかげでエイズによって死ぬ人は少なくなっているが、当時は死の病といわれるほど、多くの死者を出した。そして、彼は94年に44歳の若さで死去した。

病気以外に、彼はカンパニーの維持にも経済的に苦しみ、その苦難の中にあっても彼のパフォーマンスは衰えることなく輝いた。だが彼は、ショーの成功にもかかわらず、さらなる高みを目指し、常に不満を募らせた。

一方、長年のスケーター生活で体が悲鳴を上げ、引退を考えるようになった。そしてエイズとの闘いが、彼を一層窮地に立たせた。ジョンの一生は、生き急ぎの感は当然あるが、冷静に眺めれば、やることはすべて成し遂げた生涯ともいえる。

従来のスケートの概念を取り払い、よりバレエ的な、自由な身体活動へと置き換えたことが、ジョン・カリーの功績である。また、同性愛者への差別やエイズとの闘いと、困難な状況の中を生きた彼の存在をよみがえらせたのが、本作『氷上の王、ジョン・カリー』と言ってよい。

豊富で貴重な映像資料、そして周囲の人々の証言で、彼は生前と同様、今一度、姿を現すことに成功した。作品自体、良く調べ上げたドキュメンタリーといえる。ドキュメンタリーの役割の1つは、今まで知らぬことを知らしめることにあり、まさに本作は、その定石を踏んでいる。

構成として、インスブルックでの金メダル獲得の1976年を境とし、その後のアイス・カンパニー創立との2部となり、作品自体を引き締めている。また、数々の実写映像や証言は、作品にリズム感をもたらし、見る者を飽きさせない。

〈文中敬称略〉

▣『氷上の王、ジョン・カリー』は、5月31日から新宿ピカデリー、東劇、アップリンク渋谷、アップリンク吉祥寺ほか、全国順次公開

デジタルコンテンツ白書2018

激動の真っただ中にあるコンテンツビジネスの"いま"を知る必携の書

2018年度版白書の特集では、近年のスポーツを取り巻く環境の変化について様々な観点から紹介するとともに、スポーツというコンテンツの可能性について提示しています。他の章では、2017年の日本のコンテンツ産業の市場規模や、コンテンツ分野別動向、メディア分野別動向、海外動向を明らかにしています。

●仕様：A4変型192頁　●定価：12,000円（税別、送料別途）
●発行日：2018年9月1日　●編集・発行：一般財団法人デジタルコンテンツ協会　●販売：映像新聞社



映像新聞ウェブサイトからご購入いただけます　http://www.eizoshimbun.com/online_subscription/dcwp.htm

●ご購入に関してのお問い合わせ●　株式会社 映像新聞社　〒112-0006　東京都文京区小日向1-24-8エイゾービル　TEL 03-3942-2161　FAX 03-3942-2581　e-mail:info@eizoshimbun.com

映像入札王のご案内

映像新聞社では、株式会社ズノーと業務提携し、同社の展開する入札情報提供サービスと連携した「映像入札王」を提供いたします。

全国の入札情報を毎日メールでお届け！
膨大な数の入札･落札公告から効率的な情報入手!!

入札王
入札情報提供サービス

映像入札王とは？

**中央省庁、独立行政法人、地方自治体等の入札情報を提供するサービスです。
映像制作・関連機器、ホームページ制作、広告制作、情報処理、調査等あらゆる分野の最新の入札情報を毎日ご提供します。**

その特長は

1 業界最大級の網羅性

全国の発注機関（6,600 機関 10,000 サイト以上）を網羅。
専門スタッフの手動収集とプログラム収集の併用で収集漏れを回避。

2 案件見逃しの防止

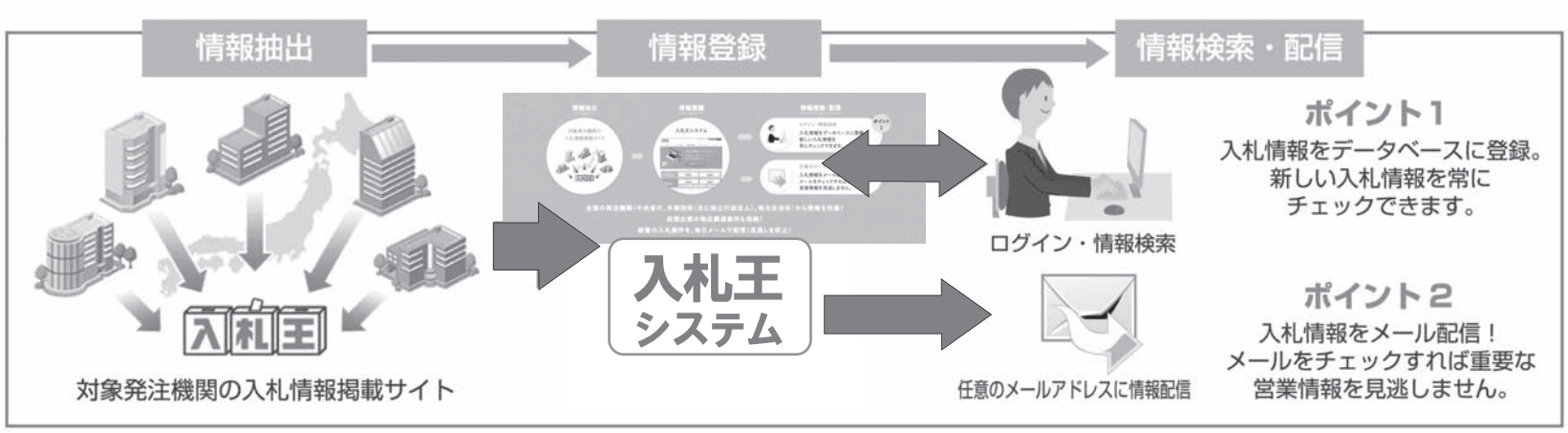
キーワードに左右されないカテゴリー検索、公告の中身まで検索する全文検索、最新案件をお届けするメール配信サービス。

3 充実のサポート体制

検索の設定代行、電話・メールによるアフターフォロー、訪問デモによる操作説明、入札参加資格の申請代行（パートナー紹介）など、入札王には万全のサポート体制が整っています。

4 リーズナブルな選べる料金プラン

入札王の料金プランは地域選択制で、お客様が自由に都道府県を選ぶことができます。「東京」「大阪」「福岡」といった飛び石での指定も OK ですので、無駄な経費が抑えられます。



10 日間 お試し
無料トライアル実施中

トライアル期間で入札王の
効果を実感してください

http://www.eizoshimbun.com

上記 URL からのエントリーで割り引き適用となります

●『映像新聞』購読の方は、下記料金から 5%引きとなります●

料金表

入札王の料金表（税別）は次のとおりです。

発注地域の選択数	契約期間6ヶ月	1ヶ月あたり料金	契約期間12ヶ月	1ヶ月あたり料金
3都道府県	¥55,000	¥9,167	¥95,000	¥7,917
4都道府県	¥71,000	¥11,834	¥125,000	¥10,417
5都道府県	¥88,000	¥14,667	¥155,000	¥12,917
6都道府県	¥105,000	¥17,500	¥185,000	¥15,417
7都道府県	¥121,000	¥20,167	¥215,000	¥17,917
8都道府県	¥138,000	¥23,000	¥245,000	¥20,417
9都道府県	¥155,000	¥25,833	¥275,000	¥22,917
10都道府県	¥163,500	¥27,250	¥290,500	¥24,208
20都道府県	¥243,000	¥40,500	¥434,000	¥36,167
30都道府県	¥272,000	¥45,333	¥473,000	¥39,417
40都道府県	¥291,250	¥48,542	¥502,500	¥41,875
47都道府県	¥300,000	¥50,000	¥520,000	¥43,333

※15 都道府県、27 都道府県等もございますのでお問い合わせください。　（税別）

●お問い合わせはこちらへ。
株式会社ズノー 入札王事務局　〒106-0044 東京都港区東麻布 1 丁目 5-2 ザイマックス東麻布ビル 2F　TEL：(03) 6441-0332 ／ FAX：(03) 6441-0336

「カンテク2019」開催

関西テレビが6月4日
地上波4Kの研究発表など

関西テレビ放送は、「カンテク2019（カンテレ テクニカルフェア 2019）」を6月4日に開催する。

7回目となる今年は、地上波での4K放送を実現するための技術研究として、同社が国内で初めて成功した「3階層4K―MIMO方式フィールド（室外）実験」についての研究発表をする。これは、現行の2K放送を流しながら同一周波数帯で4K放送を実施する技術的手法で、会場ではデモも公開する。

また、「災害に強い放送サービスとその高度化」をテーマに、総務省による基調講演「放送政策の動向（仮）」や、専門分野による特別講演を開くほか、同社が進める技術開発や放送機器メーカーの新製品などを数多く展示する。入場無料。

【日時】6月4日／12―18時（講演会は13時から）

【会場】関西テレビ放送1階なんでもアリーナ（大阪市北区扇町2―1―7）

【詳細】www.ktv.jp/kantec

製造業でのVR活用

個別無料相談を実施

東京技術協会

東京技術協会は、製造業を対象とした「製造業に生かすVR」個別無料相談サービスを6月5日から開始する。

対象は、VR（仮想現実）の導入・活用に携わる製造業のマニュアル部門、サービス・メンテナンス部門、教育部門、販促部門などの担当者。

内容は、①製造業におけるVR活用の現状とこれからの課題についての説明、②VRコンテンツ体験、③相談（マーケティング部が対応）。

同社は、2月に東京ビッグサイトで開催された「3D&バーチャルリアリティ展」で、「VR航空機機内ウォークスルー」「展示会ブースデザイン遠隔VR体験シミュレーター」「VRマンションモデルルーム内覧」などの体験コーナーを設置。業務改善や社員教育、見込み客へのプレゼンテーションを念頭に置いた、今すぐ現場や販促で活用できる3DVRコンテンツを提案した。

【日時】▽第1回＝6月5日／10―17時▽第2回＝6月20日／10―17時（完全予約制＝1回1時間半程度を想定）

【会場】申し込みの際に個別に連絡

【連絡先】マーケティング部（担当：高崎）Eメール／takasaki@togi.ne.jp

◆訃報

高嶋宏昌氏（たかしま・ひろまさ＝映像センター前相談役、日本映像機材レンタル協会名誉顧問）5月13日に肺がんにより死去。84歳。通夜および告別式は、家族葬において執り行われた。映像センター設立に携わり、代表取締役、代表取締役会長を歴任した。

FUJINON映像機器

大阪と東京で内覧会

富士フイルム

富士フイルムは「FUJINON映像機器内覧会2019」を大阪と東京で開く

主力製品である4K対応放送用ポータブルズームレンズUAシリーズ「UA46×9・5／13・5」をはじめ、PLマウントシネマ用ズームレンズ「Premista 28―100」（東京会場のみ）、現場での運用性を向上させるアクセサリー、世界市場で注目の高輝度・超短焦点プロジェクター「FUJIFILM PROJECTOR Z5000」などを展示する予定。

【大阪】▽6月4日／10―18時、5日／10―17時▽会場＝メビック扇町（大阪市北区扇町2―1―7 カンテレ扇町スクエア3階）

【東京】▽6月11日／10―18時、12日／10―17時▽会場＝青山テピア・地下1階会議室A・B・C（東京都港区北青山2―8―44）

【問い合わせ】富士フイルム 光学・電子映像事業部 国内販売グループ ☎048―668―2143

第2級CATV技術者資格

7月に各地で講習試験

CATV技術協会が実施

日本CATV技術協会は、「2019年第2級CATV技術者資格」の講習試験日程を発表した。全国各地で7月に開催し、2日間の講習（技術科目と法規科目）と同日に実施される試験に合格すると、資格が取得できる。受験申し込みの締め切りは5月31日までとなっている。

第2級CATV技術者資格は、CATVにかかわる基本的な技術を習得した人に付与されるもの。CATV技術者資格のエントリーレベルとして、新入社員やコールセンター、加入営業などの社員研修に有効。また、CATVエキスパート資格や第1級CATV技術者資格、CATV総合監理技術者資格など上位資格のステップアップに活用できる。この場合、第2級CATV技術者資格の取得者は法規科目が免除される。

「技術」と「法規」の2科目

講習試験は、2日間の日程で技術科目と法規科目について実施。講習はテキストを使って各科目のポイントを学習し、試験はテキストを参照しながら解答が可能。技術科目、法規科目両方に合格すると、第2級CATV技術者資格を取得することができる。

技術科目では、CATVの歴史と概要から、デジタル放送方式、CATV伝送方式、デジタル放送受信調査やその障害、CATVの施工・宅内工事、ブロードバンドネットワークとプロトコル、DOCSISとIP電話など、CATVの放送・通信の基本技術を広く扱う。

法規科目では、放送法での有線一般放送の登録・届出、申請様式、技術的能力、技術基準、安全・信頼性などCATV事業者が遵守すべき関係法令について学ぶ。

料金は3万4776円（講習・テキスト代）。技術科目のみ、法規科目のみの受講受験も可能。

【日程と会場】（いずれも7月）▽大阪＝10、11日▽名古屋＝11、12日▽東京A＝14、15日▽高松＝16、17日▽広島＝17、18日▽札幌＝18、19日▽東京B＝23、24日▽福岡＝25、26日▽仙台＝29、30日

【申し込み・詳細】www.catv.or.jp

「情報」がビジネスを熱くする。

映像新聞は、放送やブロードバンド、デジタルコンテンツプロダクション、映像制作者など映像業界へ向け、ビジネスとテクノロジーの両視点で情報を発信している専門紙です。映像のデジタル化は、デジタル放送やデジタルシネマといった新しい文化を創り、ブロードバンドにより新しいコミュニケーションを発達させました。映像新聞は、これらの動きをいち早く伝え、新鮮な情報をお届けいたします。
ビジネスを熱くするメディア……それが「映像新聞」です。

映像新聞

毎週月曜日、月4回発行（年間48回発行）
基本ページ数
20ページ／タブロイド判
年間購読料：26,000円（送料込み）＋消費税

海外での購読の場合は、消費税分を除いた料金に別途送料がかかります。 詳しくはお問い合わせ下さい。

ウェブサイトからお申し込みができます
www.eizoshimbun.com

短期購読および複数購読のご案内

●短期購読の場合
◎3カ月購読の場合：7,200円（1部600円×12回）＋消費税
◎6カ月購読の場合：14,400円（1部×24回＋消費税）

●複数購読の場合（年間購読契約のみ）
対象となる購読者（以下の3つの条件をすべてを満たすこと）
◎送付先が同一であること
◎請求先が同一であること（送付先とは別でも可）
◎購読契約期間（契約更新月）が同一であること

※料金（申し込み部数により料金を割引きます）
・2–5部は10%割引き （1部、年間23,400円＋消費税）
・6–9部は20%割引き （1部、年間20,800円＋消費税）
・10部以上は30%割引き（1部、年間18,200円＋消費税）

●ご購読のお申込み・お問い合わせはこちらへ。
映像新聞社 〒112-0006 東京都文京区小日向1-24-8エイゾービル TEL 03-3942-2161 FAX 03-3942-2581 e-mail:info@eizoshimbun.com

YOUR STORY OUR MUSIC

AUDIO NETWORK

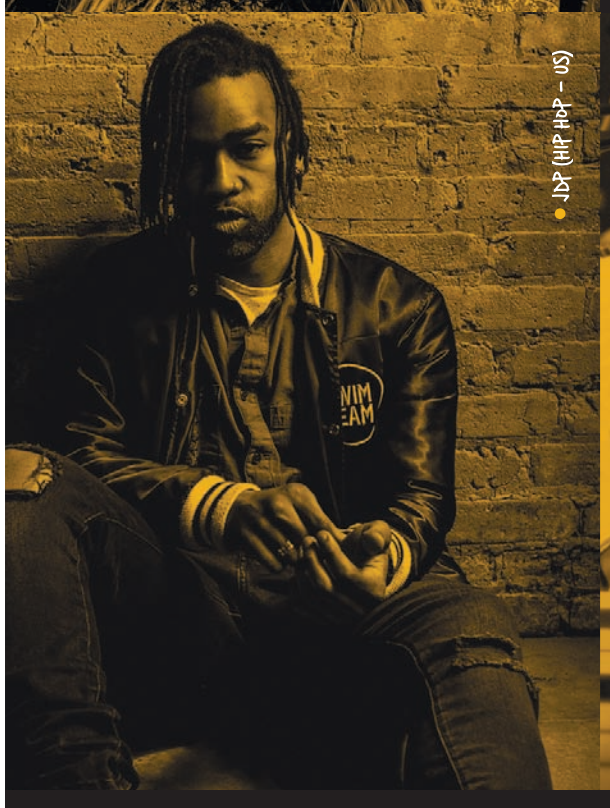


ご詳細はこちらを
スキャンして下さい



オーディオネットワークの
音源は放送コンテンツを
グローバルに一括カバー。







15万曲のオリジナル音源で、
より彩り豊かな作品に。

London New York Tokyo Los Angeles Toronto
Amsterdam Munich Paris Lisbon Manchester
Madrid Maplestead Milan Dubai Warsaw Sydney

当社音源は著作物のため、各国での著作権管理団体への音源利用報告をお願い致します。

ウェブサイト jp.audionetwork.com
email infojp@audionetwork.com
電話 03 4580 1437